彦根市埋蔵文化財調査報告第19集

法士南遺跡・門田遺跡

— 団体営ほ場整備事業に伴う —

平成２年３月

彦根市教育委員会

法士南遺跡・門田遺跡
平成二年三月
彦根市教育委員会

序

五年間に及んだ葛籠町工区のほ場整備事業も、本年でいよいよ完工の運びと聞いております。この間、河瀬土地改良区をはじめ地元の人々のあたたかいご理解に支えられて、埋蔵文化財の発掘調査を進めてまいりました。この付近は、以前から旧街道に沿って発展してきた歴史地理的な条件から、古くより開けていたことが考えられていました。五年間における埋蔵文化財の発掘調査でも、この予想を裏切る事なく、縄文時代晩期から中世に至る数々の遺構、遺物が出土しています。人々の英知がより多く土地に刻まれている地域であると考えられます。

五年間にわたる発掘調査は、掘削を受ける排水路を中心とする線的な調査であり、各遺跡の全体を明らかにするまでには至りませんでしたが、歴史の表面に現われない人々の営みを教えてくれる貴重な史料であると言えましょう。この様な史料がより多く集まれば、豊かな歴史を解明する事になると考えます。

本書は、平成元年度の団体営ほ場整備事業に先だつ事前調査として実施しました市内遺跡調査事業の報告書であります。彦根市は旧愛知郡、旧犬上郡、旧坂田郡にまたがる市域を持っていますが、この事から考えましても多様な歴史を経て来た事が考えられます。本書がこれ等の歴史を解明する一助になれば幸です。また、「彦根らしさ」を創り出して行く基礎的な資料となれば望外の喜びであります。

最後になりましたが、河瀬土地改良区をはじめとする地元の皆様や関係者の方々には文化財に対するご理解とご協力をいただきまして厚くお礼を申し上げます。

平成２年３月

彦根市教育委員会
教育長　和　田　豊　治

例　　言

1. 本書は、平成元年度に実施した補助事業市内遺跡群発掘調査事業の報告書である。
2. 遺跡は、法士南遺跡が彦根市法士町および葛籠町地先に、門田遺跡が彦根市堀町地先に所在する。また、葛籠南遺跡は葛籠町地先に所在する。
3. 調査は、河瀬土地改良区の依頼に基づき彦根市教育委員会が実施した。
4. 調査は、次の体制で実施した。

彦根市教育委員会

社会教育課長　高橋安太
同課長補佐　尾本吉史
同文化財係長　日夏秀喜
同文化財係技師　本田修平

5. 現地の調査および整理作業には次の方々が参加した。

調査作業員

大堤須美子・亀岡よし・北川正吉・鈴木千代
茶木作次・出口加寿夫・寺村まつ・中尾芳雄
西村昭三・原　弥助・疋田千鶴子・古川　久
若林善五郎・若林佳子

整理作業員

乾　範子・角岡真理子・中嶋容子・西村幸子

以上敬称を略す。

記して感謝したい。

6. 出土遺物等の資料は、本市教育委員会が保管している。

目　　次

序

例言

1. はじめに …… 1

2. 調査の結果 …… 3

3. まとめ …… 8

4. 門田遺跡の試掘調査について …… 9

5. 法士南遺跡出土遺物観察表 …… 10

図　版　目　次

図版 1 ～ 2　法士南遺跡と周辺の遺跡およびトレンチ配置図 …… 17

図版 3　葛籠南遺跡関連試掘調査トレンチ配置図 …… 19

図版 4 ～ 6　法士南遺跡遺構および断面図 …… 20

図版 7　門田遺跡と周辺の遺跡 …… 23

図版 8　門田遺跡トレンチ配置図 …… 24

図版 9 ～14　法士南遺跡出土遺物実測図 …… 25

図版 15　遺構検出状況 …… 31

図版 23　出土遺物写真 …… 39

1. はじめに

法士町は、旧中仙道の面影を現在に伝える松並木を残す葛籠町と犬上川の中間に位置し、旧中仙道に沿った集落である。この集落の南から東にかけては、甲良町との境がいりくみながら走っている。法士南遺跡は、この法士町と葛籠町の間に広がる田面に須恵器等の遺物が散布する散布地として確認していた遺跡である。旧中仙道に沿って葛籠南遺跡と並ぶ犬上川左岸の遺跡群に入っている。

犬上川左岸の国道８号線を中心とするこの付近の地形の現状は、豊かな農業地域として田や畑が広がっているが、所々に湧水地や薮に覆われた荒地が見られ、典型的な扇状地先端部の地形を示している。この様な地理的な条件でこの地の歴史は展開したと考えられ、犬上川左岸の遺跡群は形成された。

この中で、縄文時代晩期から古墳時代前期に至る歴史は、南川瀬南遺跡や堀南遺跡等で若干の遺物や遺構等資料はあるが、まだまだ資料不足であり、その詳細を知るには至っていない。この地の農耕が進んだ時代は、現時点までの資料から古墳時代後期と考えられ、横地遺跡や葛籠北遺跡での後期群集墳の確認は、かなりの規模の集落が形成されていた事がうかがえる。奈良時代から平安時代にかけての遺跡は、掘立柱建物跡を中心とする集落が１～２キロメートルの間隔で確認できる事から、開発可能な地域はほぼ開発されたと考えられる。この様な歴史的な環境の中で東山道は、旧中仙道のルートで街道の設定がなされ、この地域は古代から近世に至る畿内と東国とを結ぶ主要なルートとともにその歴史を歩むことになった。

以上の様にこの地域は、現在までの資料から見れば、古墳時代後期から人々の活動が顕著になり遺跡として残されている。

次に調査に至る経過および調査方法について述べたい。

河瀬土地改良区による葛籠町工区のほ場整備事業は、５ケ年の継続事業として計画されたもので、当初の全体事業計画決定時点で土地改良区から埋蔵文化財確認調査依頼の提出を受け、工区全体の確認調査を実施した。その結果、工区内で南川瀬南遺跡、葛籠南遺跡、法士南遺跡の３つの遺物の散布地を確認した。このため、河瀬土地改良区及び市農政課と当市教育委員会の協議で、年度ごとに工事予定地域の調査を実施することにした。

以上の協議結果をふまえて、平成元年度は葛籠町工区の最終工事として葛籠町から法士町の旧中仙道より上の工区がほ場整備工事予定地域であるため、法士南遺跡の調査を実施した。

調査に至る経過は、平成元年４月28日付け河瀬土改第10号で発掘届および調査依頼の提出があり、当教育委員会では平成元年６月３日付け彦教委社第380号で発掘届の進達および調査通知の提出を県教育委員会にした。

発掘調査は、先ず掘削が確実に行なわれる排水路予定地を中心に試掘調査を実施し、遺構面や包含層等遺跡の範囲が明確になった地点では、トレンチを拡張してその性格を把握する事として計画した。現地の調査は、工事が夏期施工のため麦の刈り入れをまって平成元年７月11日から試掘調査に入り、遺構が確認できた地点ではトレンチを拡張して調査を実施した。また、東海道新幹線と甲良町の間の工区についても、昨年度の調査で新幹線の端まで遺構が確認できたため遺跡の広がりを予想できた所から平成２年１月22日・23日の両日にわたり試掘調査を実施した。しかし、遺跡の広がりを確認することはできなかった。同時に資料の整理作業を実施し、平成２年３月31日に全ての作業を終了した。

2. 調 査 の 結 果

法士南遺跡は、前記した様に須恵器等の遺物が耕作地の表面に散っている事を確認した散布地で、法士町の南側に広がっている遺跡である。地形をミクロ的に見れば、甲良町から法士町に向かって舌状の微高地が伸びており、この狭小な微高地の間を水路が走る地形となっている。ただし、この付近は現在までの調査の結果、耕作土の下の地層は黄褐色粘質土層が遺跡の地山になっている所と礫層や砂層等と極端に言えば各田ごとに変わる様な地形であり、遺跡は安定した狭小な微高地上に展開しているものと考えられた。このため、調査は掘削される排水路敷に試掘トレンチを設定して、先ず遺跡の範囲を確認する事から始めた。結果的には、試掘トレンチは計24ヶ所におよび、遺構面を確認して拡張したトレンチは3ケ所であるが、この他遺物の出土を見たトレンチも数ケ所ある。しかし、この遺物の出土は、須恵器片等が数点から十数点と極少量で、有力な包含層も確認できなかったためトレンチを拡張して精査するまでには至らなかった。

遺構面を検出した3ケ所のトレンチの基本的な土層は、耕作土直下の黄褐色粘質土の床土が遺構面になる。ただし、40cm前後ある耕作土層は近年のトラクター等農業機械による反転のため掘り込みが20cm前後と浅くなっているため、表土下30cmぐらいで床土が形成されかけている。各トレンチで包含層として取り上げた遺物は、遺構面の精査の時点で出土した遺物がほとんどであり、明確な包含層は確認していない。

次に調査で確認した遺構について、各トレンチごとに述べる。

【20トレンチ拡張】

甲良町との境の呉竹児童公園のすぐ北側に設定したトレンチで、表土から約60cmで遺構面を検出した。遺構は竪穴式住居跡を中心とするもので計6棟を数え、この他に土拡やピットも検出している。トレンチは、4m×35mで設定した。

SH－1

20トレンチ東側で検出したほぼ一辺が4mの若干不整形なものであるが、隅丸方形をなす竪穴住居跡である。深さは約2.5cmほどで残存状況は非常に悪く、住居跡内ピットも明確には確認できなかった。主軸は、南北より10度ほど振っているが、東壁側には深さ約15

cmの楕円形をした皿状の落ち込みがあり、北隅には焼け土や灰が広がって検出できた。ただし、床面には強い焼け面は見られなかった。

ＳＨ－２

ＳＨ－１の北側約１ｍの所でＳＨ－１と一辺がほぼ一直線上に揃った状態で検出したもので、一辺が４ｍ強の隅丸に近い方形の竪穴住居跡である。この住居跡も住居跡内ピットを全て確認することはできなかったが、住居跡東壁北隅側で焼け土、灰の広がりが見られた。ただし、この焼け土層も壁面や床面での強い焼け面は確認できなかった。ＳＨ－２も深さは約20cmほどで残存状況が良いとは言えない。

このＳＨ－２は、前述した様にその一辺をＳＨ－１の直線上に並べて約１ｍ北側に存在する事や、同一規模のプランを持つ事等により、床面での遺物の出土は見なかったが、同時期に存在していた事が考えられる。

ＳＨ－３

トレンチの中央部付近でトレンチ東壁に入り込んだ形で検出した住居跡で、ＳＨ－２の北側１ｍの所でほぼ並行している。住居跡全体の約¼ほどしか調査できなかったが、その一辺をほぼ検出しており、５ｍ強の規模を持つ方形の竪穴住居跡である。深さは約15cmで残り具合はあまり良くなかったが、住居跡内ピットは比較的に良く検出できた。遺構面は複合していると考えられるために、遺構面で検出できなかったピットが床面でやっと確認できたものもあると思われる。この住居跡でも床面に着いた遺物の出土は見なかった。

ＳＨ－４

トレンチ西側で検出したもので、最初は一辺６ｍの住居跡と考えていたものが、精査した結果この落ち込みが３棟の住居跡が切り合っているものである事が確認できた。このうちの南側のものをＳＨ－４としたが、ＳＨ－３との間隔は1.５ｍでほぼ並行しており、一辺4.２ｍの規模である。住居跡のプランを確認するためにかなり削り込んでいるが、深さは20cmを計り、南隅が若干不整形であるが隅丸にちかい方形の竪穴住居跡である。住居跡中央部に径１ｍで深さ10cmほどの皿状の落ち込みを検出し、住居跡内ピットも数ケ所確認している。

ＳＨ－５

ＳＨ－４とＳＨ－６を掘り込んだ結果、床面で確認できた住居跡で、ＳＨ－５として掘

り込んだ住居跡である。遺構面で検出しきれなかったものであり、また主軸も若干振れており、東隅部分しか検出できなかった方形の落ち込みであるが、ここでは竪穴住居跡と考えている。

ＳＨ－６

ＳＨ－４と重なって検出したものであり、ＳＨ－４，ＳＨ－５に切られている。一辺６ｍの規模を持つもので、深さ10cmを計り、その残存状態は非常に悪い。住居跡に伴うものかどうかは不明である。プランは、方形でありＳＨ－４と一辺を共有する。20Ｔ拡張トレンチで確認した竪穴住居跡のうちでは一番大きいものであるが、床面に着いたかたちでの遺物の出土はなかった。

溝（ＳＤ－１）

このトレンチで確認した溝は、この１本だけであった。ＳＨ－３とＳＨ－６に切られてＮ-68°-Ｗの方向に走る断面「Ｌ」字形をした深さ18cmを計るものである。この溝についても若干の遺物が埋土内より出土したにとどまった。

土　　壙

ＳＨ－２の東側で、この住居跡に切られる形で不整形な方形を成す土壙が２ケ所確認できた。深さは20～25cmであり、ほぼ垂直に近いかたちで掘り込まれたものであるが、この遺構も若干の遺物を埋土中より出土したにとどまった。

以上述べたように、このトレンチでは竪穴住居跡６棟を中心とした遺構を検出したが、この他にピットを多数確認している。しかし、トレンチ幅が４ｍである等の事から、掘立柱建物の跡を明確に検出するまでには至らなかった。ただし、ピットの全体的な検出状況を見るなら、南北からはやや振っているが、住居跡とほぼ同一方向で並んだ傾向を示している。これは、この地の地形的な条件を示しているものと考えられる。同時に、掘立柱建物跡の存在を予想させるものと考えている。

このトレンチでの遺物の出土は、主に遺構面を精査している時点で包含層として取り上げたものと、遺構の埋土内からの出土であり遺構の底の面に着いて出土した様な直接的に遺構の時代を示す遺物の出土はなかった。しかし、出土遺物より遺構全体の時代幅を考えるなら、古墳時代後期から平安時代末期までの時間幅を考える事が妥当であろう。

また、竪穴住居跡の時期決定は、前述したように明確にその時代を示す遺物の出土がな

かったために断言する事は不可能であるが、埋土内の遺物では、坏の蓋に掛け部のついた須恵器が見られる事や、４ｍから５ｍの小型の方形住居跡である事等を考え合わせれば、奈良時代前期の前後を想定させる。ただし、ＳＨ－４、５、６の切り合いから最低でも３時期あると思われる。

以上の事から、この遺構群は比較的にまとまりのある規格性を示しており、計画的に住居を配置した集落の様子がうかがえる。

【11トレンチ拡張】

11トレンチは、葛籠町の家が並ぶ東端の田に設定したもので、遺構面を確認し遺物の出土を見たために試掘トレンチを拡張したもので、葛籠町より法士町に至る農道に並行して設定した。その規模は、幅４ｍで長さ24ｍである。

遺構面は、耕作土直下の床土層で確認したもので表土下約30cmである。この田も本来的な耕作土は30cmであるが、近年の農業機械による耕作で表土下20～25cmの所が床土化していたが、基本的には耕作土層である。以上の様に遺構面が非常に浅いために、遺構面がかなり削平されていると考えられる。

遺構は溝、ピット等を確認したが、以下に記す。

溝（ＳＤ－２、ＳＤ－３）

トレンチにほぼ並行して伸びる溝がトレンチ中央部で「十」字形を成すものとして検出したが、その後の精査でトレンチ北端から伸びる溝はトレンチ中央部で曲がり南に向って走る事が確認できた。また、トレンチ南側の溝は、ＳＤ－２に切られていることがプランとして検出できたためにＳＤ－３として掘り込んだ。

ＳＤ－２は、北端で幅60cm・深さ10cmの断面「Ｌ」字形をなすものであるが、南側では徐々に幅が広くなり約１ｍを計り断面も「Ｕ」字形に近いものになる。ＳＤ－２は、幅50cm前後で太くなったり細くなったりしながら直線的に伸びるが、深さは10cmと極く浅いものである。この２本の溝はともに埋土中の遺物は少量であり、その時代を決定するまでには至っていない。

ピット

このトレンチでも直径20cm～60cmまでのピットを多数検出したが、今回の調査で明確に掘立柱建物跡と考えられるピットは検出できなかった。ただし、当遺跡付近の近年の調査

結果から、必ずと言って良いほど奈良時代から平安時代にかけての遺構では掘立柱建物跡が確認できている。このことから、調査面積を広げればこの地域でも掘立柱建物跡を検出する事は可能だろうと考える。

【14トレンチ拡張】

11トレンチ拡張の約10m南側で設定したトレンチで、排水路はここで鉋の手状に屈曲して一担家の近くまでよって作られる設計であるために設定したものである。このトレンチも遺構面は耕作土の下の床土層で検出したものであり、耕作土層は50cmあるが、30cm前後に床土が形成されつつある。

このトレンチも、試掘の時点でピットを数ケ所確認したためにトレンチを拡張したものである。

溝（ＳＤ－１）

トレンチの東側で確認したもので、幅３ｍ・深さ60cmを計る断面逆台形状を成すしっかりと作られた溝である。ただし、埋土中にはほとんど遺物が入っておらず、その時代を決定する事は不可能である。

ＳＢ－１

トレンチの西側で１間×２間の掘立柱建物跡を確認したもので、２間×３間以上の建物跡と考えられる。ピットは、直径30～40cmの円形をなし、柱間は２ｍを計る。主軸は、Ｎ７°－Ｅとほぼ南北を示している。

ＳＢ－２

ＳＢ－１の南側で確認したもので、現状では１間×３間の掘立柱建物跡であるが、本来的には２間×３間以上の建物跡と考えられる。ピットは30cm前後の直径を持ち、柱間は２ｍを計る。主軸は、Ｎ－115°－ＥとＳＢ－１と13°東に振っている。この２つの建物跡は重なり合うもので、建物跡が少なくとも２時期ある事を示しているが、ピット内よりの遺物の出土はほとんどなく、その時期を決定することはできなかった。また、切り合い関係も不明である。

3. ま　と　め

法士南遺跡の発掘調査は、今回初めて実施したものであるが、遺構検出の状況や遺物の出土状況等は、葛籠南遺跡のそれと非常に良く似ている。すなわち、遺構の検出できる範囲が非常に狭いと言う事が一番に上げられる。これは、調査範囲が極めて限定されている事にもよるが、遺構が確認できる範囲が直線で40m 前後であり、遺構の立地する微高地が狭小であると言う地形的な理由によると考えられる。１の「はじめに」でも記した様にこの地域は犬上川が形成した扇状地先端部であり地理的に安定した地形が限られていた事が上げられよう。この地形的に限られた中で、人々は比較的安定した所に集落を形成した事がうかがえる。この時代が、古墳時代の後期であったと考えられ、この後集落が平安時代まで継続的に営まれていたと思われる。

２番目には、この地の遺構面がほぼ30～50cmの耕作土直下で検出されている事である。この事は、この地の沖積作用が弱かった事を示していると考えられるが、遺構面が削平されていた可能性もあると思われる。このために、包含層がないか、あったとしても非常に薄いものであり、あまり遺物を出土しない遺跡を形成したものと考えられる。

遺跡の検出状況としては上記したような事があげられるが、歴史の時間的な流れの中でこの地域を見た場合、古墳時代後期の集落の良い資料がまだない段階であるので確定的な事は言えないが、後期群集墳を検出した葛籠北遺跡の存在を抜きにしては語れないだろう。すなわち、古墳を持つ遺跡と狭小な微高地に立地する遺跡の差であるが、母村と分村的な関係を暗示するが、現在の資料ではまだ具体的にその関係を語るには至っていない。

以上の事から現時点での所見を述べれば、この地域が本格的に開かれたのは古墳時代後期以降であり、奈良時代、平安時代と順調に集落が営まれていた。ただし、その範囲は極めて限られていたと考えられる。この地は遺構面まで比較的に浅く、また遺構が耕作等によって削平された可能性を考えれば、堆積作用が非常に弱かったと思われ、地形的に見れば極めて安定していたのではないだろうか。この事が古代国家における街道の整備の時に有利であり、東山道がこの地付近に決定した１つの理由ではなかったか。

以上の様に考えるなら、この地域は彦根の古代を考える上で非常に重要な意味を持つ地域であると考えられる。今後の資料の増加に期待したい。

4. 門田遺跡の試掘調査について

門田遺跡は、犬上川が扇状地を抜けて沖積地を形成した、犬上川中流部左岸に所在する遺跡で、現在の犬上川より0.5kmに位置する。遺跡は堀町東側に広がる田で耕作土表面に須恵器等の遺物が散布する事から確認できたもので、沖積地微高地に立地する散布地と考えられた。

当遺跡のＪＲ琵琶湖線を挟んだ東側には、後期群集墳・竪穴住居跡・掘立柱建物跡を中心とした横地遺跡があり、また南側約1kmには弥生時代後期と考えられる方形周溝墓や他には作り付けのかまどが付いた竪穴住居跡等を確認した堀南遺跡がある。また、当遺跡の北西1kmの所には以前に調査を実施した上沢尻遺跡が所在し、対岸には弥生時代最終末から古墳時代に至る集落跡と白鳳時代の古瓦を出土している竹ケ鼻廃寺がある。この様に見るならば、犬上川は豊かな歴史を育んで来たことがわかる。

今回の発掘調査は、河瀬土地改良区によるほ場整備事業の事前調査として実施したものであるが、当初昭和62年に工事計画がなされ土地改良区・市農政課と当教育委員会が協議をして工事実施にあたっては発掘調査を行なうこととした。当地は稲籾を作る田であるとの事で休耕ができないと言う条件があり、また他の地域の工事もあり今年度の施工となったものである。このため、発掘届および調査依頼を河瀬土地改良区から再度出してもらった。事務手続は、平成元年9月28日付河土改等11号で発掘届および調査依頼の提出があり、これを受けて当市教育委員会では平成元年10月2日付彦教委社第998号で発掘届の進達および調査通知を滋賀県教育委員会に提出した。

調査は、排水路予定地に先ず試掘トレンチを入れて、遺構、包含層等が検出できた場合はトレンチを拡張することとして計画した。工事は、冬期施工との事であり、稲の刈り入れ後の10月2日より重機にて試掘調査を実施し、その後平板測量を行ない10月6日で終了した。排水溝は江面川から堀の集落まで県道三津彦根線に平行して予定されていたため、ほぼ田一枚おきに試掘トレンチを設定し、結果的には10ケ所のトレンチを設定した。

全体の土層は、強い沖積地の様相を示しており、粘土層から砂層もしくは砂礫層になり各トレンチともに湧水が見られた。また、7トレンチの下の田は自噴する湧水があり、田は重機が沈みかけるほど地盤が悪かった。これ等のことより考えれば、この地は強い低湿地であった事がうかがえ、若干出土した遺物は流れ込みによるものと思われる。また、遺構も確認できなかった。

法士南遺跡出土遺物観察表

番号	種類・器形	法量(cm)	形態	調整	胎土・色調・焼成	備考
1	須恵器 直口壷	口径9.1	○体部は扁平に内弯して開き、最大腹径は上位に位置する。 ○頸部はあまりしまらず、口縁部は上方に伸び、端部を丸くおさめる。	○体部は内・外面ともにロクロナデ調整で底部外面は不調整。	胎土：良好 色調：淡灰色 焼成：硬	20T拡張 包含層
2	須恵器 坏蓋	口径12.8	○ドーム状の天井部より、口縁部は屈曲して外弯ぎみに開き、端部を丸くおさめる。 ○一応坏蓋としたが身の可能性もある。	○体部および口縁部も内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：灰黒色 焼成：硬	〃
3	〃		○ほぼ平坦な天井部に扁平な宝珠つまみが付けられている。 ○宝珠つまみは張り付けと思われ、天井部はやや厚手に作られる。	○内面はロクロナデ調整であるが、外面はヘラ削り成形の後にロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：灰色 焼成：硬	〃
4	〃	口径17.2	○天井部は扁平なドーム状を成し、掛け部はシャープに下方に引き出され端部を丸くおさめる。	○天井部・掛け部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
5	須恵器 坏身	高台径8.8	○高台は張り付けで外側にふんばった断面四角形を成す。 ○体部はシャープに屈曲し斜め上方に伸び、屈曲部に稜を持つ。	○底部・体部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
6	〃	口径 14	○体部はほぼ直線的に斜め上方に開き、口縁部を丸くおさめる。	○体部・口縁部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む 色調：青灰色 焼成：硬	〃
7	〃	口径12.3	〃	〃	胎土：精良 色調：白灰色 焼成：硬	〃
8	須恵器 不明	口径 11	○口縁部はやや外側に引き出され丸くおさめる。 ○口縁部下の外面にはシャープな稜を作り、内側と下方に伸びる。	○口縁部・体部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：黒灰色 焼成：硬	20T拡張 P－1

番号	種類・器形	法量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
9	須恵器 坏蓋	口径10.5	○丸いドーム状の天井部より口縁部はやや外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○天井部・口縁部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡青灰色 焼成：硬	20T拡張 P－1
10	〃	口径13.6	○ほぼ平坦に開く天井部より掛け部はシャープに下方に引き出され断面三角形の掛け部を作り、屈曲部に稜を持つ。	○天井部・掛け部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む。 色調：青灰色 焼成：硬	〃
11	〃	口径16.9	○扁平なドーム状をなす天井部より掛け部は屈曲して下方に引き出され端部を丸くおさめる。	〃	胎土：1㎜以下の砂粒を含む。 色調：灰色 焼成：硬	〃
12	須恵器 坏身	口径 14	○体部は直線的に外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○体部・口縁部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
13	須恵器 坏蓋	口径14.3	○扁平なドーム状をなす天井部より強く屈曲して断面三角形のしっかりした掛け部を作る。	○天井部・掛け部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：青灰色 焼成：硬	20T拡張 P－2
14	須恵器 甕	口径22.2	○口縁部は外弯しながら開き、端部は外側と内側に引き出して肥厚させ、上端を強いナデで凹ませる。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－1
15	須恵器 壷	口径 14	○口縁部は直線的に開き、端部を外弯させて丸くおさめる。	〃	胎土：良好 色調：灰色 焼成：硬	〃
16	須恵器 坏蓋	口径11.9	○天井部は扁平なドーム状をなし、掛け部は屈曲して外側に引き出し段を作り、端部を斜下方に引き出して内側を弱く肥厚させ掛け部を作り、端部は丸くおさめる。	〃	胎土：精良 色調：青灰色 焼成：硬	〃
17	〃	口径16.7	○天井部は平坦なドーム状をなし、端部をシャープに内傾させて引き出し、稜を作り、断面三角形の掛け部作る。	〃	胎土：良好 色調：黒灰色 焼成：硬	〃
18	須恵器 坏身	口径 15 器高 4	○高台は断面台形状をなした張り付け高台である。 ○体部は外傾して開き端部を丸くおさめる。	○高台・体部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：1㎜前後の砂粒を含む。 色調：濃灰色 焼成：硬	〃
19	〃	高台径9.9	○高台は断面台形をなした張り付け高台である。 ○体部は平坦な底部から外傾するように折り曲げられ開く。	〃	胎土：1㎜前後の砂粒を極少量含む 色調：淡灰色 焼成：硬	〃

番号	種類・器形	法量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
20	須恵器 坏身	高台径 6.8	○高台は断面四辺形をした張り付け高台である。 ○体部は厚手の底部から外傾して開く。	○高台・体部内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：青灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－1
21	〃	口径 14.8	○体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○体部は内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
22	〃	口径14.4	〃	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
23	〃	口径　16	〃	〃	胎土：良好 色調：淡灰色 焼成：やや硬	〃
24	〃	口径13.6	〃	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
25	〃	口径16.7	〃	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
26	〃	口径13.4	〃	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
27	〃	口径13.3	〃	〃	胎土：1㎜以下の砂粒を極少含む。 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
28	〃	口径11.7	〃	〃	胎土：良好 色調：濃灰色 焼成：硬	〃
29	〃	口径13.6	〃	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
30	〃	口径17.2	○体部は内弯して開き、口縁を外弯して端部を丸くおさめる。 ○全体的にシャープな作りである。	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
31	灰釉陶器 碗	口径 16	〃	〃	胎土：精良 色調：淡緑色（釉調） 淡灰色（胎土） 焼成：硬	〃

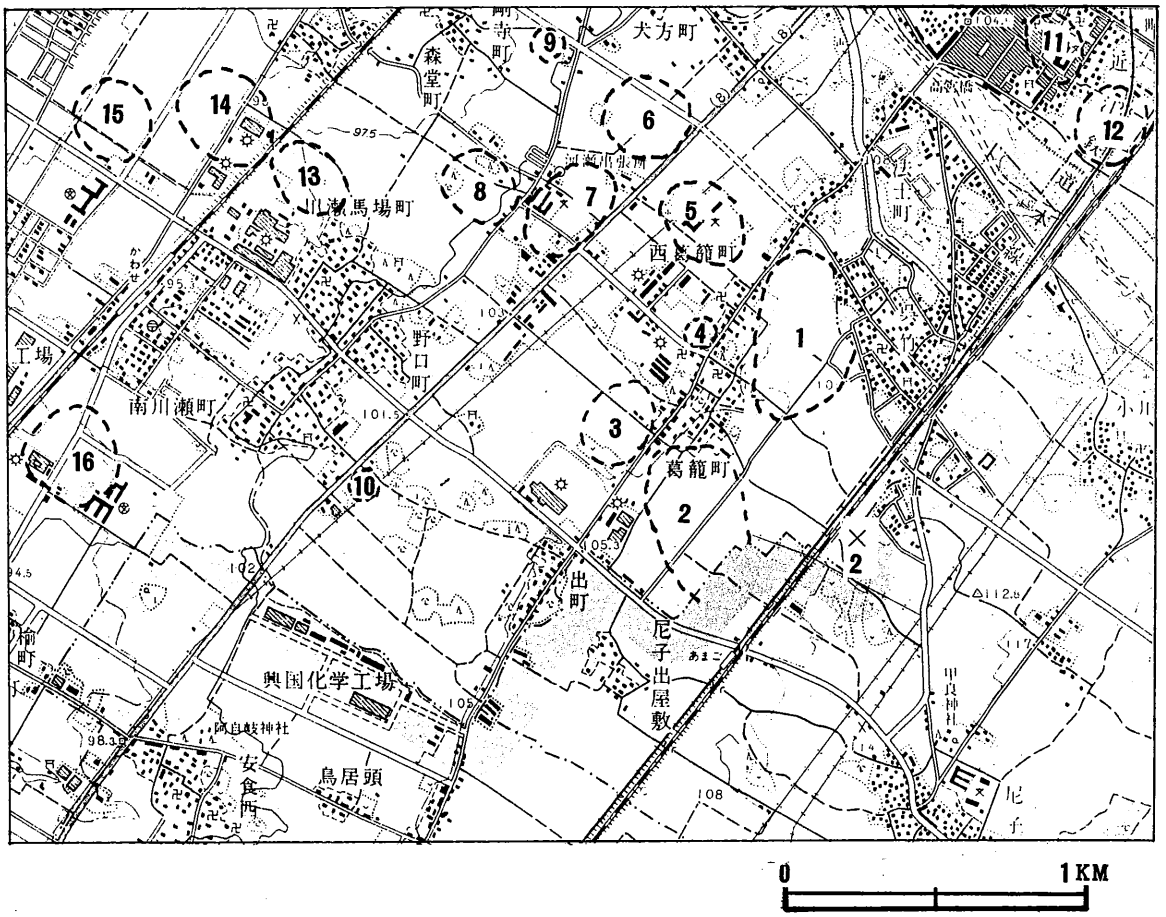
番号	種類・器形	法量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
32	土師器 壷	口径12.6	○口縁は「く」の字状をなし、端部を丸くおさめる。	○口縁部は内外面ともに横ナデ調整と思われる。	胎土：1㎜以下の砂粒を含む。 色調：乳赤褐色 焼成：軟	20T拡張 SH－1
33	土師器 長甕	口径20.2	○口縁は外弯ぎみに「く」の字状に開き、端部を上方につまみ出し丸くおさめる。	〃	胎土：精良 色調：赤褐色 焼成：硬	〃
34	土師器 脚部	脚部径 5.4	○脚部はラッパ状に開き、端部を丸くおさめる。	○外面は横ナデ調整であるが、内面は不調整。	胎土：精良 色調：赤褐色 焼成：硬	〃
35	須恵器 坏身	口径13 器高 4.1	○底部はほぼ平に作られ、体部は直線的に外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○底部外面はヘラ切りの後ナデ調整。 ○体部は内外面ともに横ナデ調整。	胎土：良好 色調：灰白色 焼成：硬	20T拡張 SH－2
36	土師器 長甕	口径25.1	○口縁部は直線的に開き、端部を若干肥厚させる。	〃	胎土：1㎜以下の砂粒を含む。 色調：乳白褐色 焼成：軟	〃
37	須恵器 壷	口径13.4	○口縁は直線的に立ち上がり、端部を外弯させて丸くおさめる。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡青灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－3
38	須恵器 坏蓋		○天井部はドーム状をなす。	○天井部外面はヘラ切りの後に横ナデ調整。 ○体部は内外面ともに横ナデ調整。	胎土：良好 色調：乳灰色 焼成：硬	〃
39	〃	口径11.8	○天井部はドーム状をなし、口縁を2段に屈曲させて端部を丸くおさめる。	○天井部外面はヘラ切り不調整。 ○体部は内外面ともに横ナデ調整。	胎土：精良 色調：青灰色 焼成：硬	〃
40	〃	口径10.7	○天井部はドーム状をなし、口縁をやや外弯させて端部を丸くおさめる。	○体部は内外面ともに横ナデ調整。	胎土：精良 色調：乳白色 焼成：軟	〃
41	〃	口径15	○天井部は扁平なドーム状をなし、口縁内面を引き出して掛部を作り、端部を丸くおさめる。	○体部は内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
42	〃	口径10.9	〃	〃	胎土：良好 色調：淡青灰色 焼成：硬	〃
43	〃	口径17.4	○天井部は平坦な作りで、端部をシャープに折り曲げ、断面三角形の掛部を作る。 ○掛け部に稜を持つ。	〃	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む。 色調：青灰色 焼成：硬	〃

番号	種類・器形	法量(cm)	形　　態	調　　整	胎土・色調・焼成	備　考
44	須恵器 坏蓋	口径13.5	○天井部は扁平なドーム状をなし、端部を下方に引き出し断面三角形の掛け部を作る。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－3
45	〃	口径23.6	〃 ○掛け部外面に稜を作る。	〃	胎土：1mm以下の砂粒を若干含む。 色調：灰色 焼成：硬	〃
46	須恵器 坏身	口径10.7 器高 4.1	○不整形な底部より体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○底部外面は不調整。 ○体部内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1mm以下の砂粒を含む。 色調：白灰色 焼成：硬	〃
47	〃	高台径 10.1	○高台は断面四辺形の張り付け高台。 ○体部は外傾して開く。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：青灰色 焼成：硬	〃
48	〃	高台径10	○高台は端部を強く外側に引き出してしっかりとふんばった張り付け高台。 ○体部は外傾して開く。 ○長頸壷の高台の可能性がある。	○高台部および体部ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：白灰色 焼成：硬	〃〃
49	〃	口径11.2	○体部は外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：白灰色 焼成：硬	〃
50	〃	口径11.1	〃	〃	胎土：精良 色調：白灰色 焼成：硬	〃
51	〃	口径11	○体部は直線的に開き、口縁部をやや外弯させて丸くおさめる。	〃	胎土：精良 色調：淡青灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－6
52	〃	口径13.2	〃	〃	胎土：精良 色調：淡青灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－3
53	〃	口径16.7	○体部は直線的に開き、端部を丸くおさめる。	〃	胎土：1mm以下の砂粒を極少量含む。 色調：青灰色 焼成：硬	〃
54	〃	口径15	〃	〃	胎土：精良 色調：灰色 焼成：硬	〃

番号	種類・器形	法量(cm)	形態	調整	胎土・色調・焼成	備考
55	須恵器 坏身	口径12.9	○体部は内弯して開き、口縁を外弯させて端部を丸くおさめる。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む。 色調：暗灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－3
56	〃	口径12.9	〃	〃	胎土：精良 色調：青灰色 焼成：硬	〃
57	須恵器 不明	底部径 10.2	○底部は平底で体部は外傾して立ち上がる。	〃	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	〃
58	土師器 不明	口径21.7	○体部は外傾ぎみに立ち上がり、口縁は外傾して開き、端部を丸くおさめる。	○器表剥脱のため不明。	胎土：2㎜前後の砂粒を含む。 色調：乳白褐色 焼成：軟	〃
59	須恵器 甕	口径19.6	○口縁は外弯ぎみに開き、端部を外側に引き出し端部上側に面を作る。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	20T拡張 P－4（SH－5内）
60	土師器 甕	口径10.8	○体部は内弯して立ち上がり、頸部はあまりしまらずに外傾して開く「く」の字の口縁部にいたる。	○体部は器表の剥脱が激しいが、内外面ハケ調整と思われる。 ○口縁部は内外面ともに横ナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む。 色調：淡白褐色 焼成：やや硬	〃
61	須恵器 坏蓋	口径17.8	○体部は扁平な天井部から開き、掛け部を下方に引き出し、端部を丸くおさめる。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－6
62	〃	口径17.8	〃	〃	胎土：1㎜以下の砂粒を極少量含む。 色調：灰色 焼成：硬	〃
63	〃	口径15.4	〃	〃	胎土：良好 色調：灰色 焼成：やや硬	〃
64	〃	口径16	○平坦な天井部より体部は外傾して開き、端部を下方に引き出し断面三角形の端部を作る。 ○端部外面に稜を持つ。	〃	胎土：精良 色調：淡白灰色 焼成：硬	〃
65	〃	口径18.1	〃	〃	胎土：精良 色調：濃灰色 焼成：硬	〃

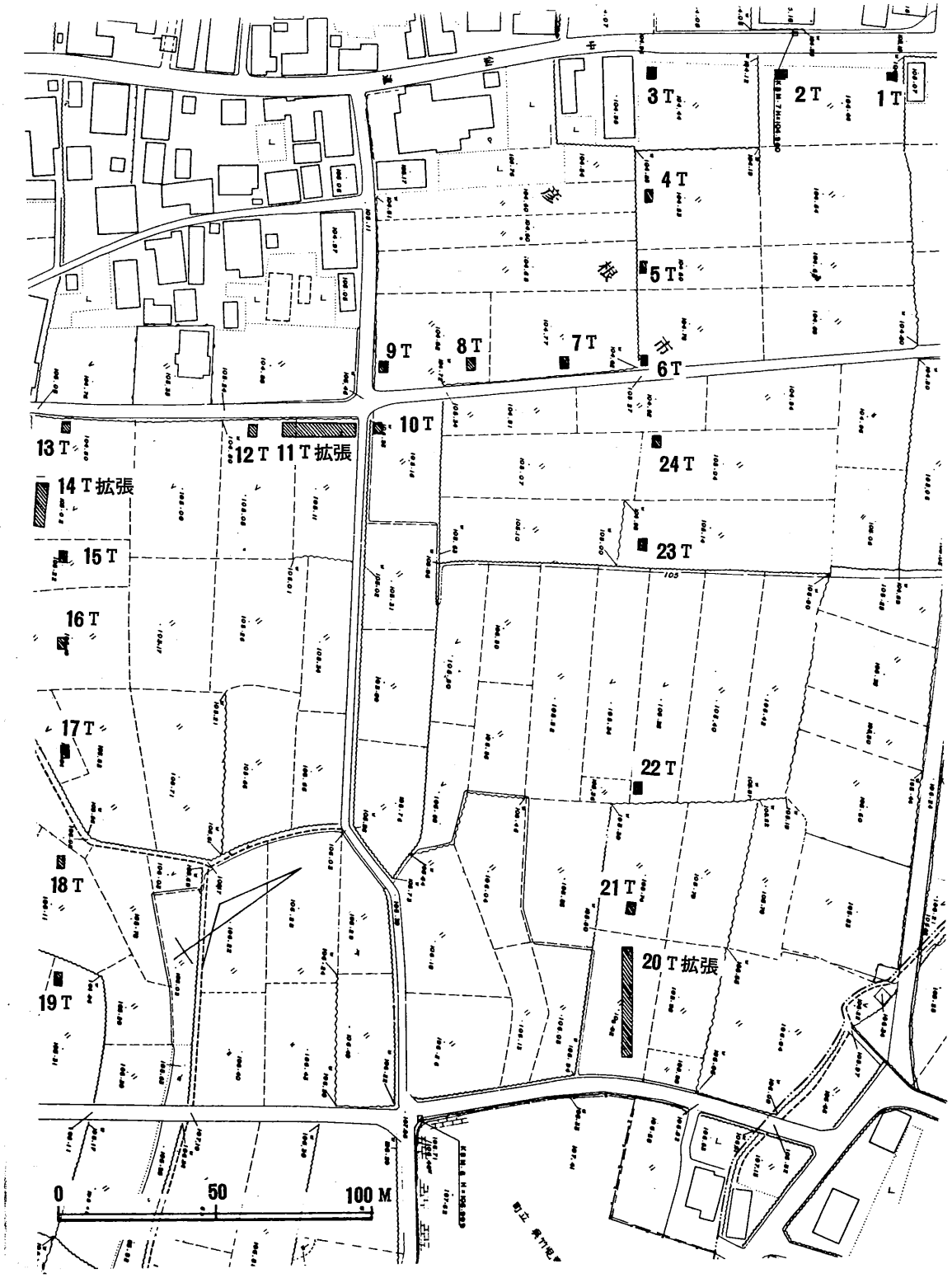
番号	種類・器形	法量(cm)	形態	調整	胎土・色調・焼成	備考
66	須恵器 坏身	口径13.9	○体部はやや内弯ぎみに開き、端部を丸くおさめる。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：1㎜以下の砂粒を若干含む。 色調：淡灰色 焼成：硬	20T拡張 SH－6
67	〃	口径10.6	○体部は直線的に開き、端部を丸くおさめる。	〃	胎土：1㎜以下の砂粒を含む。 色調：灰黄色 焼成：やや硬	〃
68	土師器 長甕	口径25	○体部は肩が張らず、直線的に立ち上がり、頸部はしまらずに内弯して端部を丸くおさめる口縁部へと続く。	○器表剥脱のため調整法不明。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む。 色調：乳灰黄色 焼成：軟	〃
69	須恵器 坏蓋		○やや扁平なドーム状の天井部を成す。	○外面はヘラ切りの後に横ナデ調整。	胎土：良好 色調：淡灰色 焼成：硬	18 T 第3層
70	〃		〃	○天井部外面はヘラ切りの後に横ナデ調整。 ○天井部内面および体部内外面ともに横ナデ調整。	胎土：良好 色調：灰白色 焼成：硬	〃
71	〃	口径16.7	○天井部は扁平に作られ、端部をシャープに引き出し断面三角形をなす。	○内外面ともにロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：灰白色 焼成：硬	〃
72	土師器 長甕	口径25.9	○やや厚手で外傾して開き端部を弱く面取りしておさめる。	○器表剥脱のため不明。	胎土：1㎜前後の砂粒を若干含む。 色調：乳白色 焼成：軟	〃
73	須恵器 坏身	高台径 10.6	○高台は断面台形状をなす張り付け高台。 ○体部は外傾して開く。	○高台部、体部ともにロクロナデ調整。	胎土：良好 色調：青灰色 焼成：硬	6 T 包含層
74	〃	高台径 10.8	○高台は断面逆台形状をなす張り付け高台。 ○体部は外傾して開く。	〃	胎土：良好 色調：灰色 焼成：硬	〃
75	青磁 碗	高台径 6.1	○高台はしっかりした四辺形をなす。 ○底部は厚手に作られている。	〃	胎土：精良 色調：白灰色 釉調：緑灰色 焼成：硬	8 T 第3層

図　　版



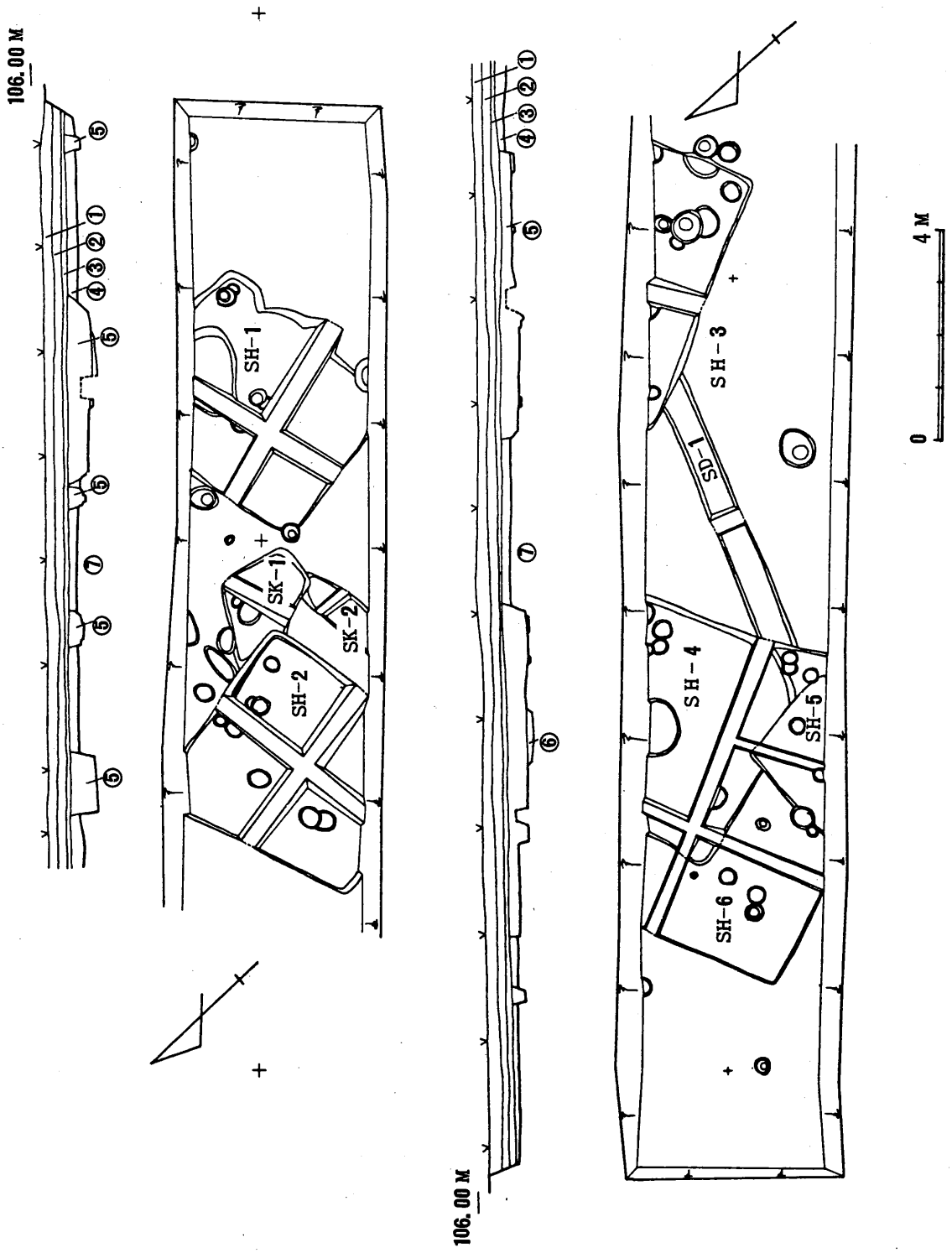
図版１　法士南遺跡と周辺の遺跡

1	法士南遺跡（今回調査地）	9	神ノ木遺跡
2	葛籠南遺跡（×は今回試掘地）	10	南河瀬遺跡
3	南川瀬南遺跡	11	高宮城跡
4	西葛籠遺跡	12	カツトリ遺跡
5	葛籠北遺跡	13	西海道遺跡
6	段ノ東遺跡	14	杉田遺跡
7	極楽寺遺跡	15	鶴ケ池遺跡
8	天田遺跡	16	十八遺跡

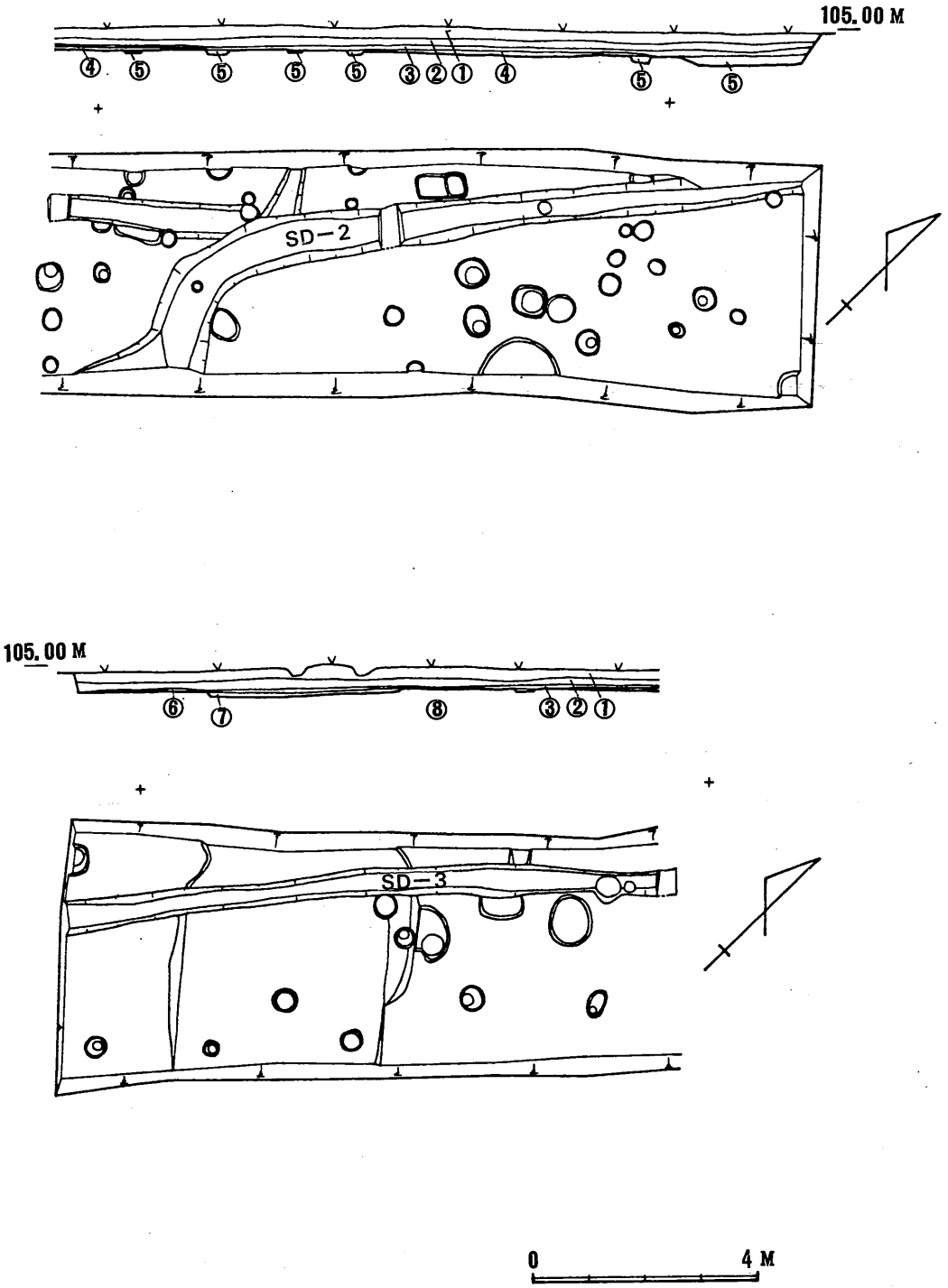


図版２　法士南遺跡トレンチ配置図

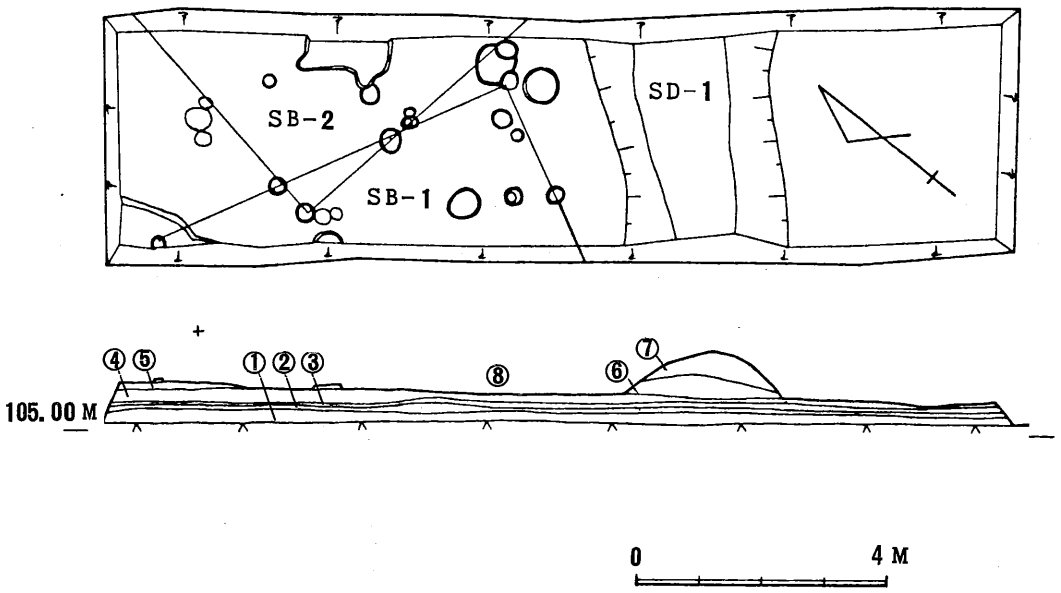
図版３　葛籠南遺跡関連試掘調査トレンチ配置図



図版4　法士南遺跡20トレンチ遺構および断面図

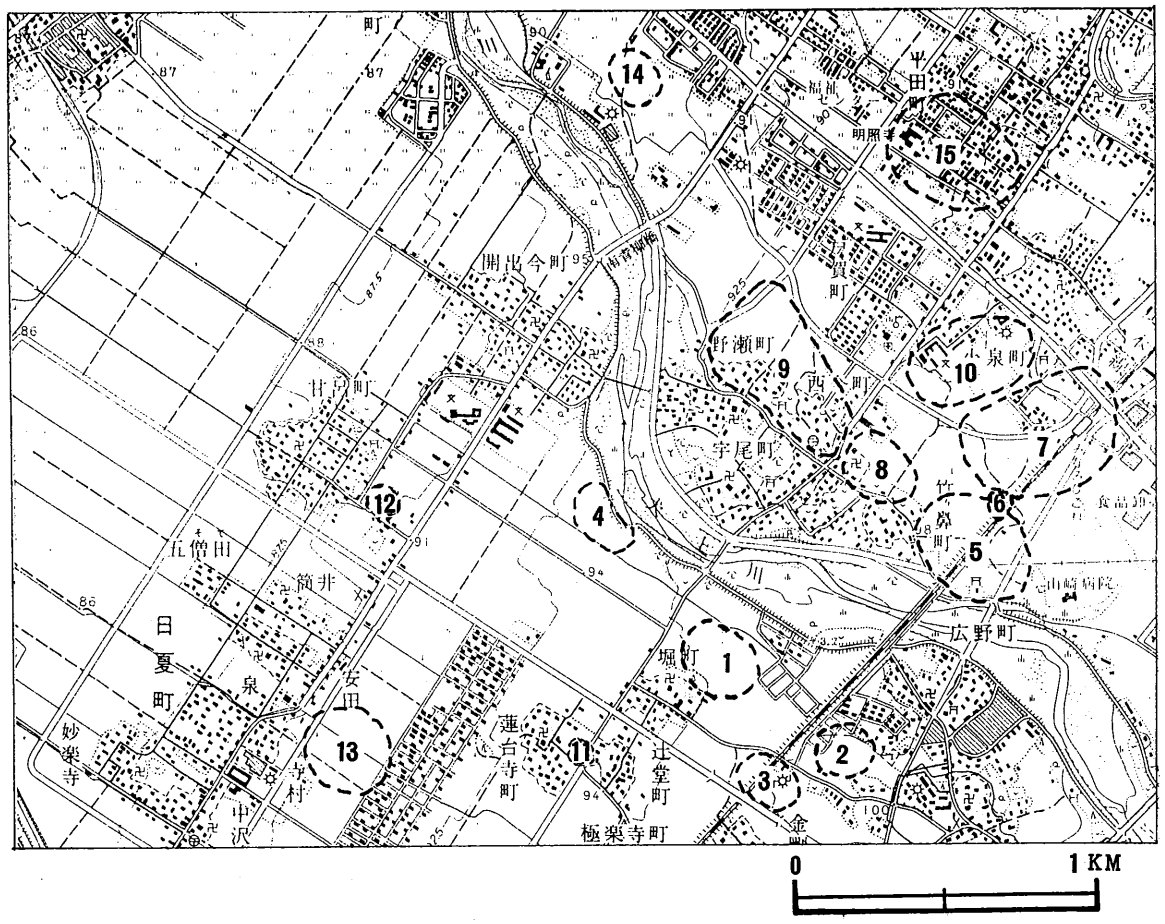


図版５　法士南遺跡 11 トレンチ遺構および図面図



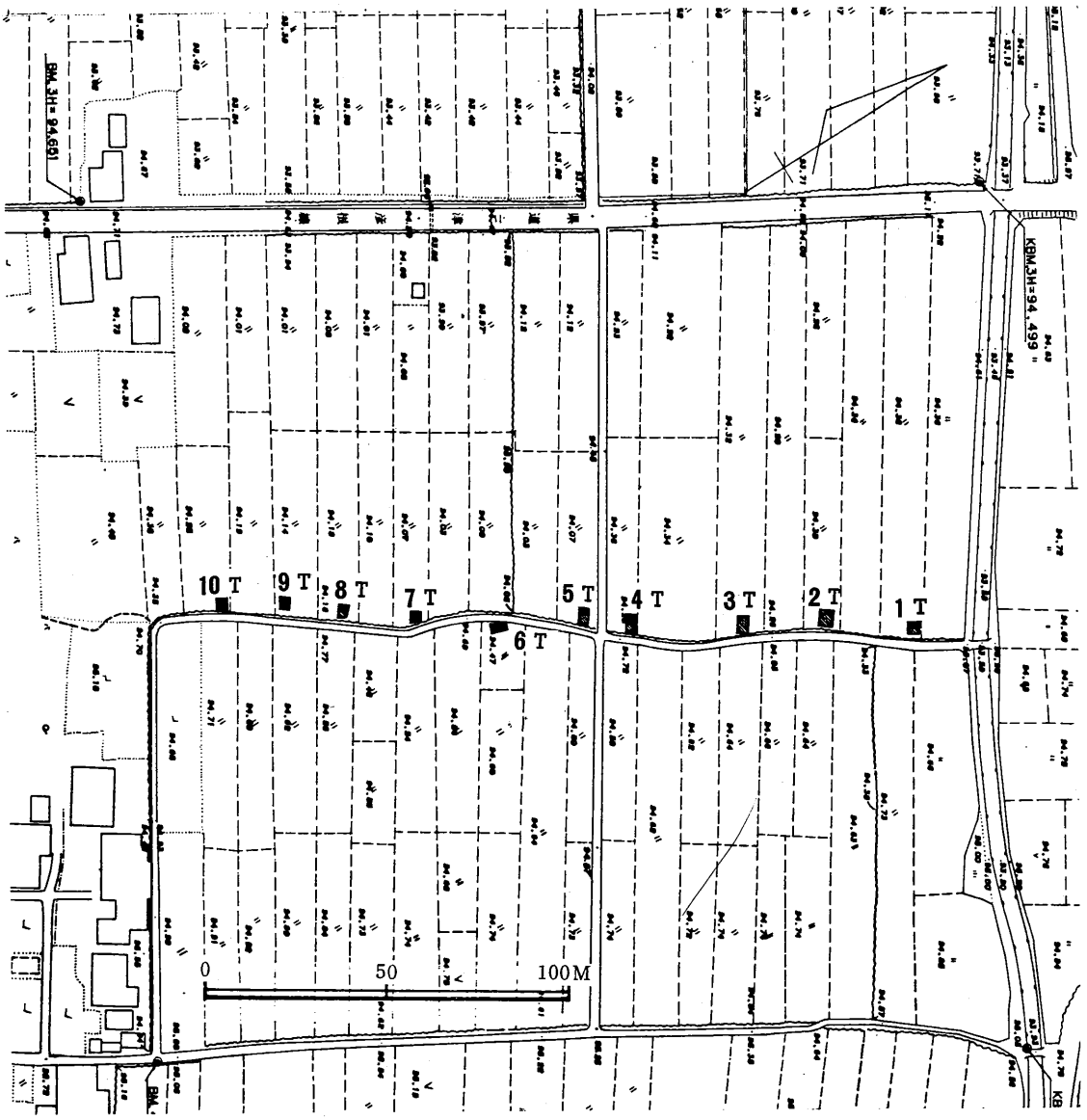
図版6　法士南遺跡14トレンチ遺構および断面図

断面図土色表					
20 T 断面図		11 T 断面図		14 T 断面図	
①	耕作土層	①	耕作土層	①	耕作土層
②	灰黄色粘質土層(旧耕作土層)	②	灰褐色粘質土層(旧耕作土層)	②	灰褐色粘質土層(旧耕作土層)
③	褐黄色粘質土層	③	黄褐色粘質土層	③	黄褐色粘質土層
④	茶褐色粘質土層	④	黒茶色粘質土層	④	茶褐色粘質土層
⑤	黒茶色粘質土層	⑤	黒灰色粘質土層	⑤	濃茶褐色粘質土層
⑥	黒灰色粘質土層	⑥	褐黄色粘質土層	⑥	礫混り黒褐色粘質土層
⑦	黄褐色粘質土層	⑦	黒褐色粘質土層	⑦	黒灰色粘質土層
		⑧	礫混り褐黄色粘質土層	⑧	褐黄色粘質土層

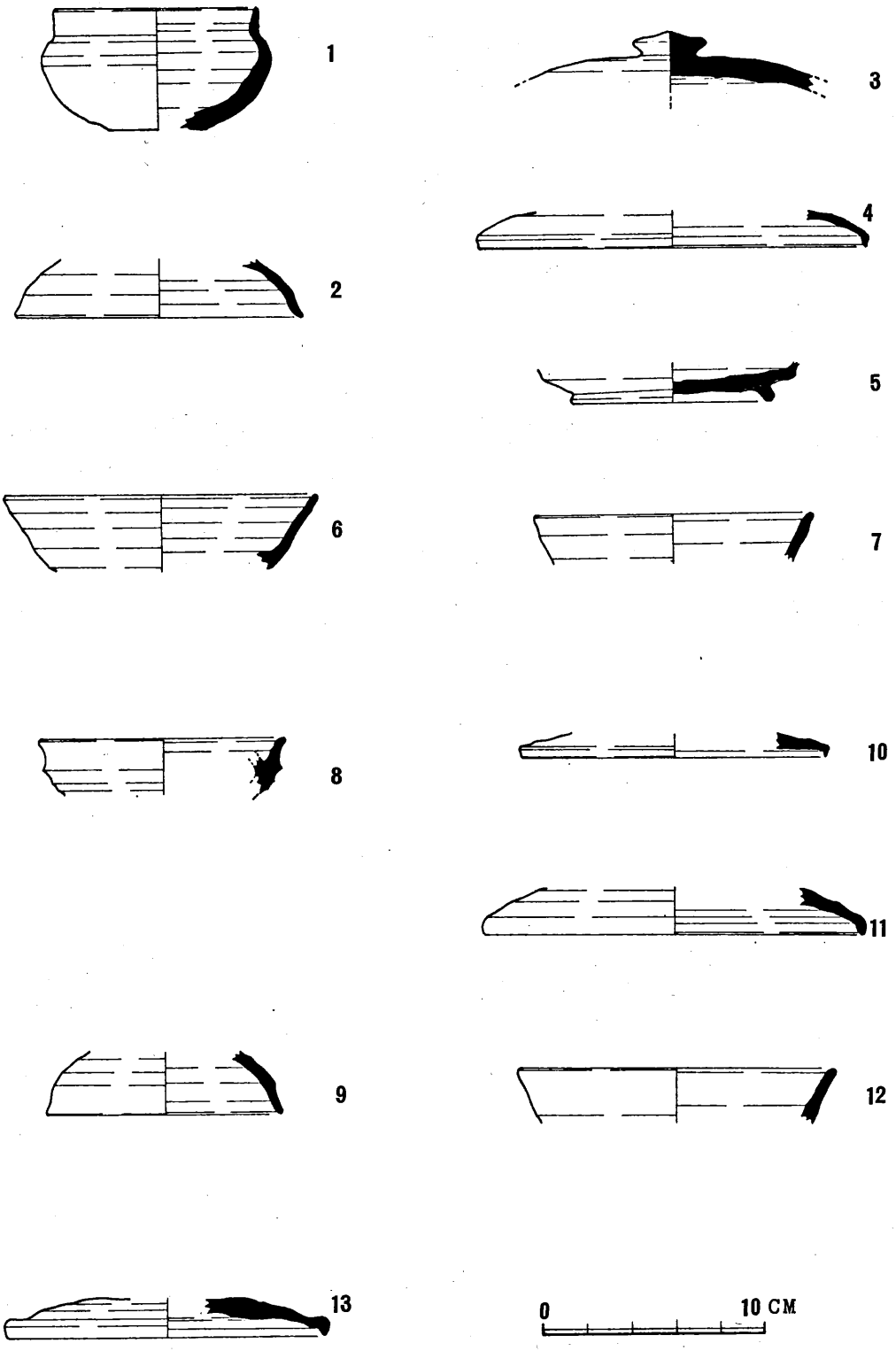


図版７　門田遺跡と周辺の遺跡

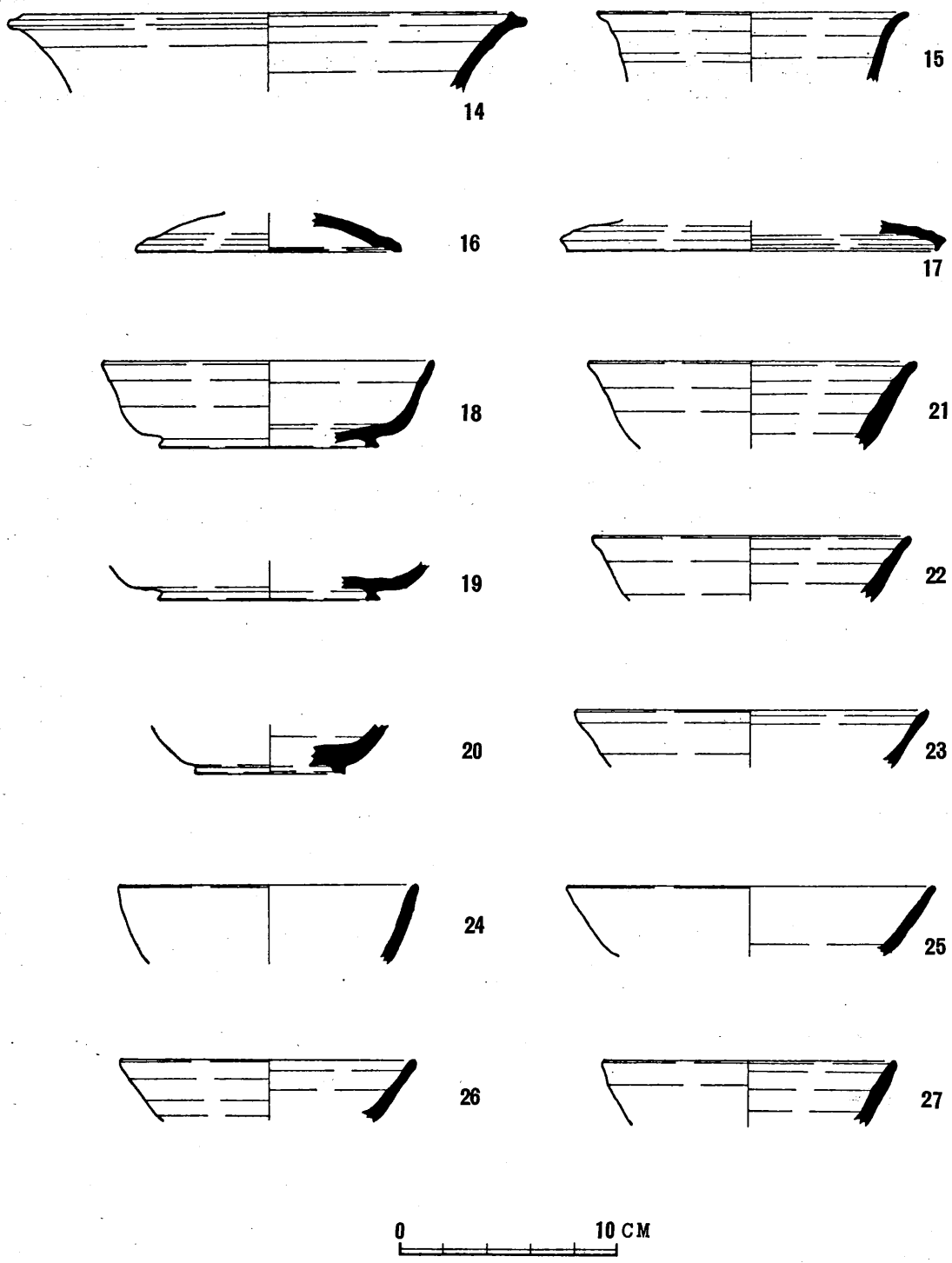
1	門田遺跡（今回調査地）	9	須川遺跡
2	横地遺跡	10	福満遺跡
3	石原遺跡	11	蓮台寺遺跡
4	上沢尻遺跡	12	甘呂遺跡
5	竹ケ鼻廃寺	13	寺村遺跡
6	椿塚遺跡	14	中久保遺跡
7	品井戸遺跡	15	木戸口遺跡
8	西今遺跡		



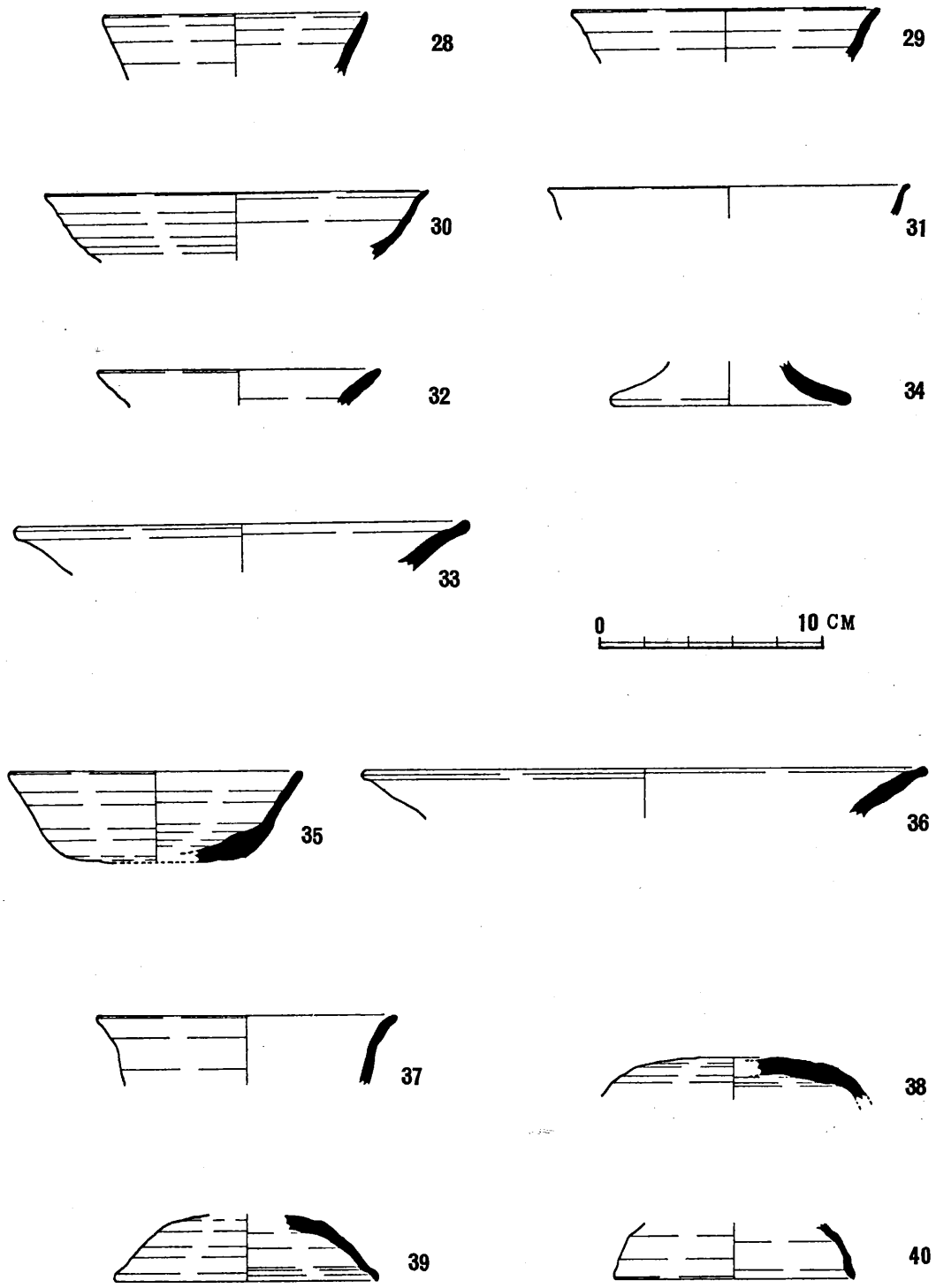
図版８　門田遺跡トレンチ配置図



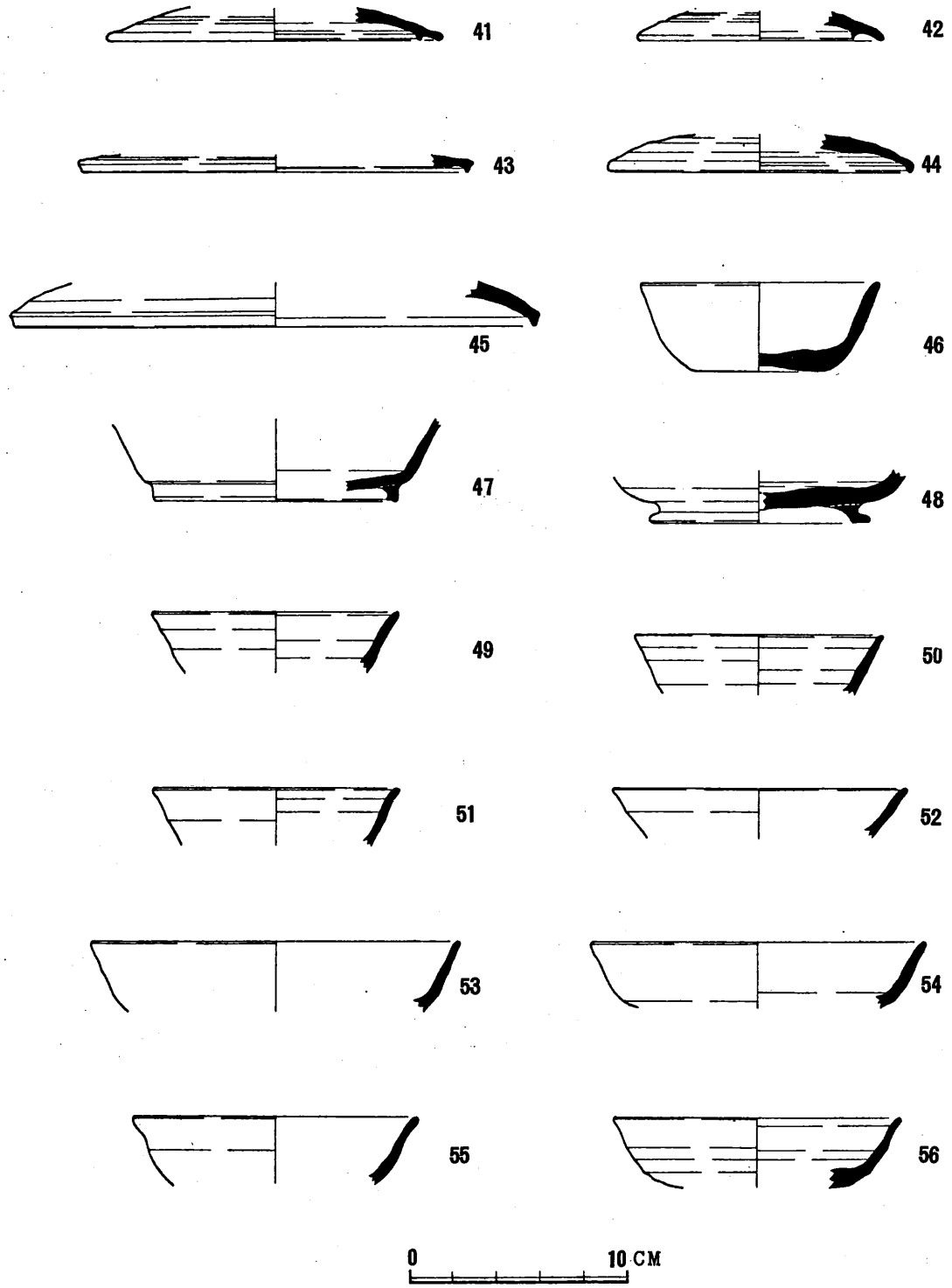
図版９　法士南遺跡出土遺物実測図



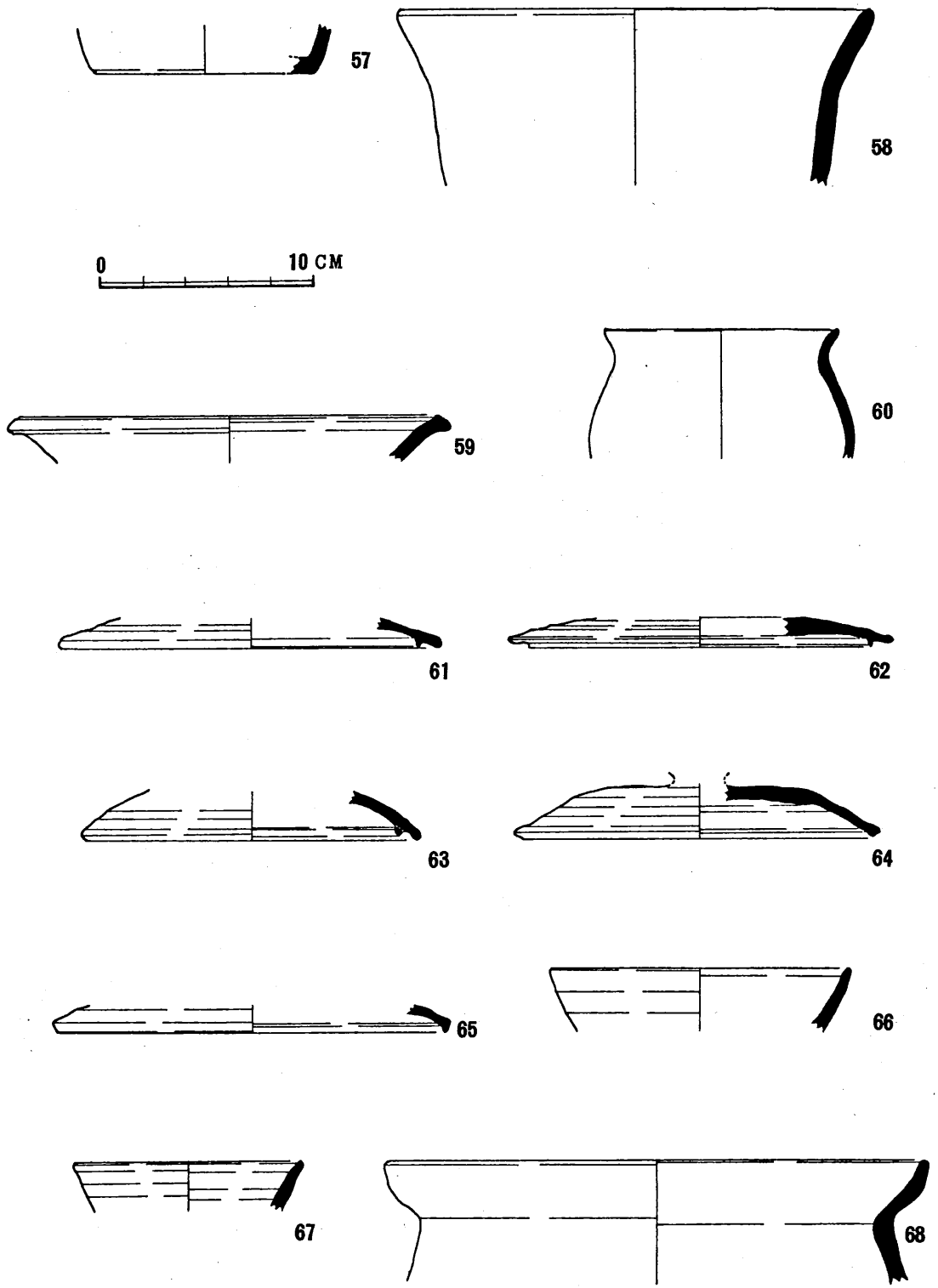
図版 10　法士南遺跡出土遺物実測図



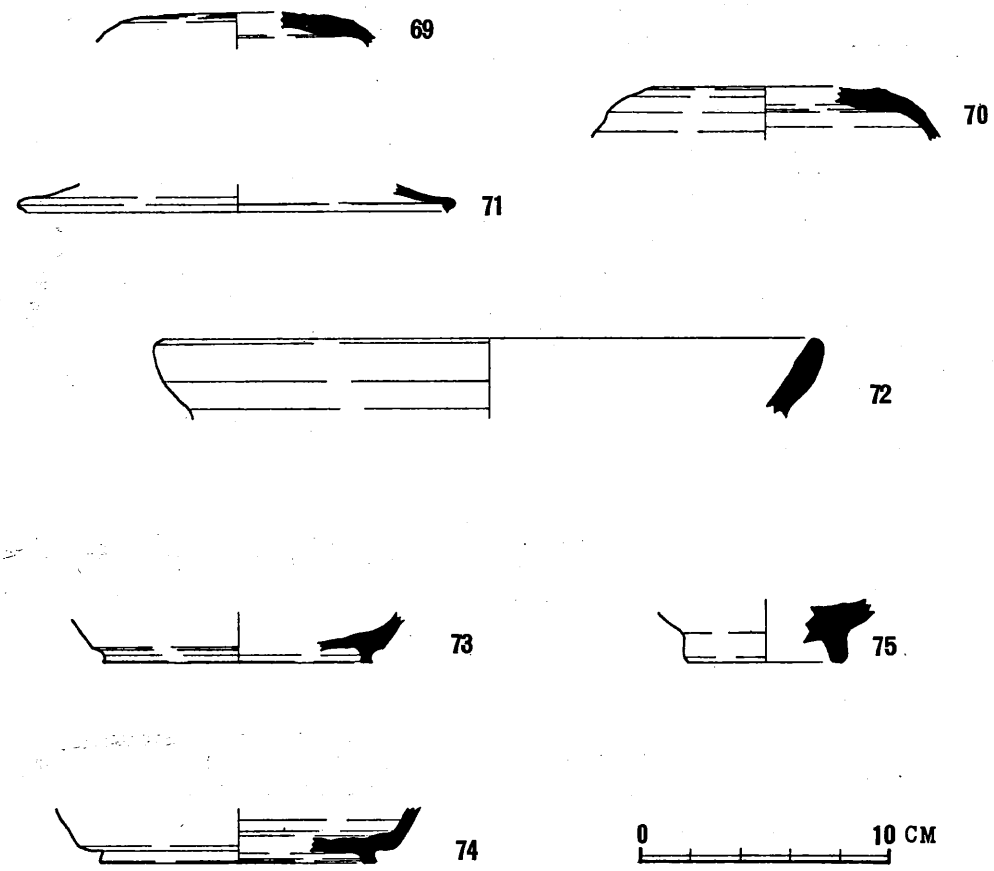
図版 11　法士南遺跡出土遺物実測図



図版 12　法士南遺跡出土遺物実測図



図版 13　法士南遺跡出土遺物実測図



図版 14　法士南遺跡出土遺物実測図

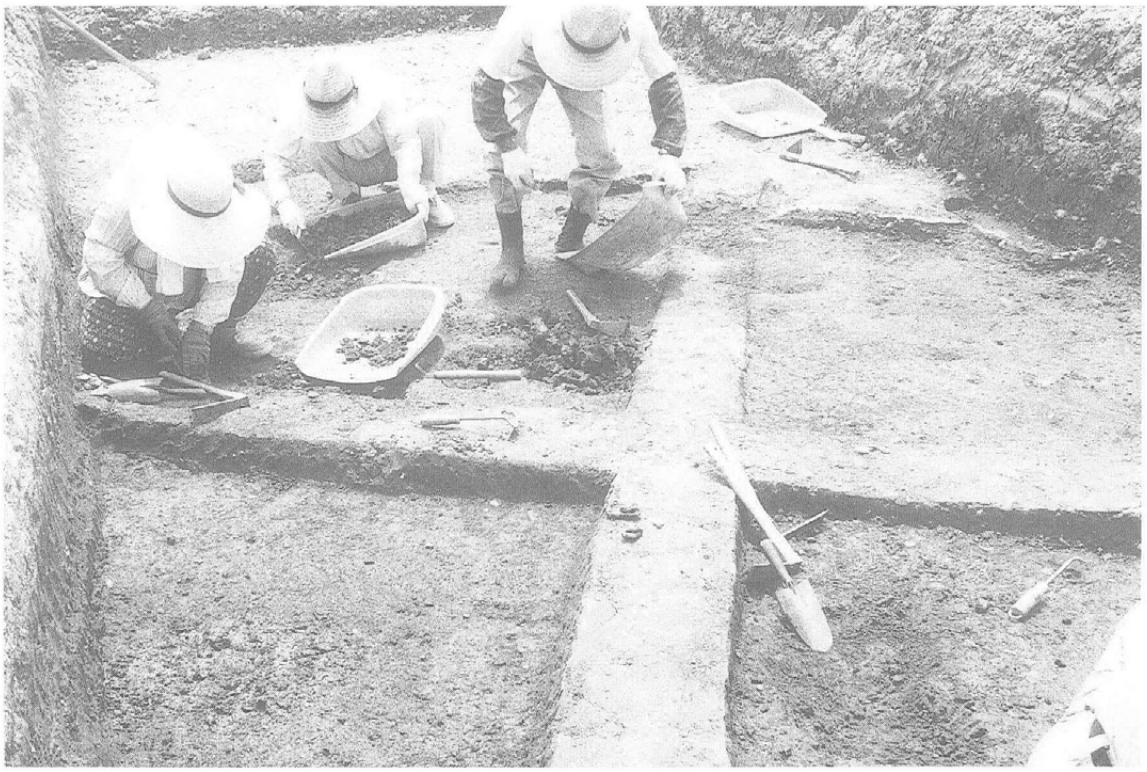
法士南遺跡試掘溝設定状況

図版 15　　法士南遺跡 14 T 試掘状況

法士南遺跡 20 T 遺構検出状況（東から）

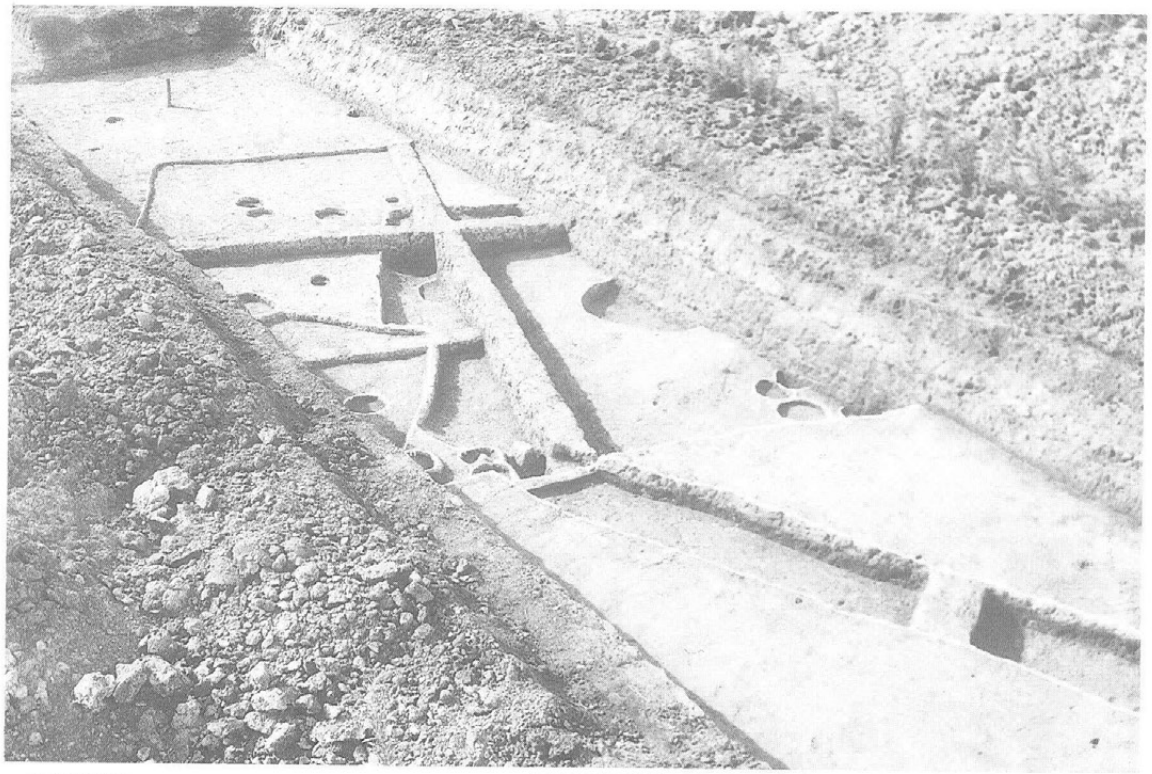
図版 16　　法士南遺跡 20 T 遺構検出状況（西から）

法士南遺跡 20 T 遺構検出状況（南から）



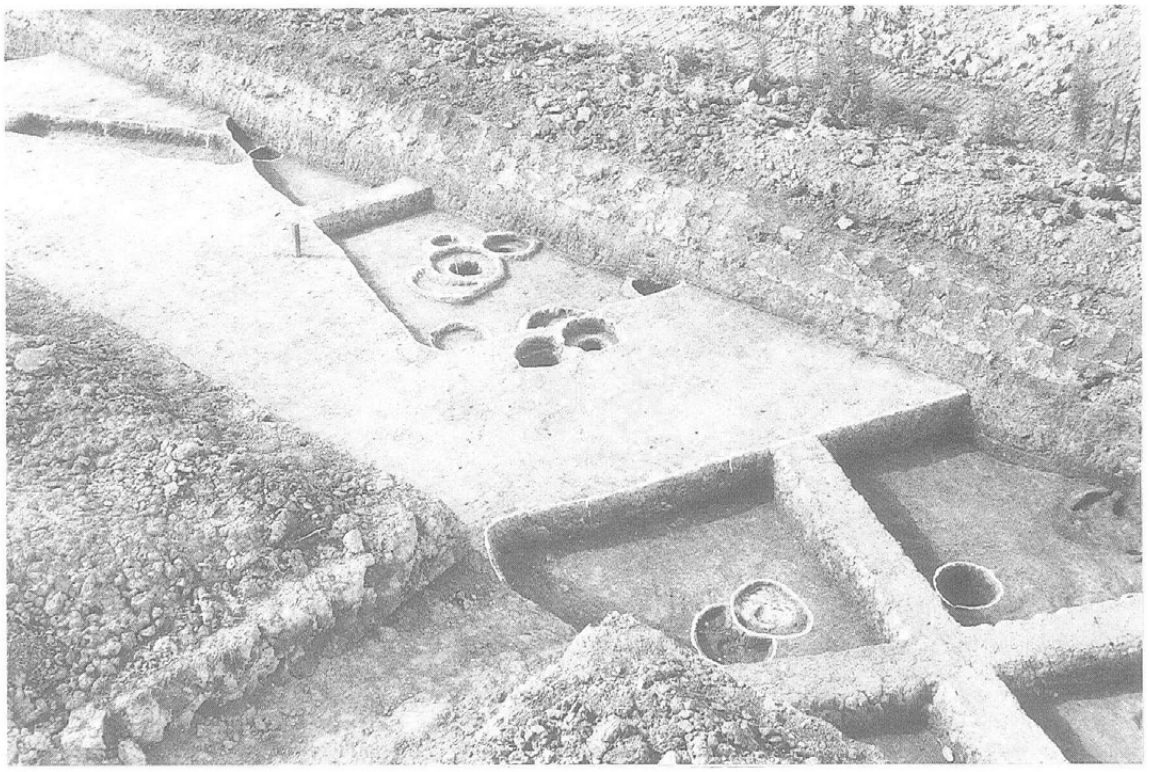
図版 17　　法士南遺跡 20 T 遺構掘込み作業

法士南遺跡 20 T 拡張掘り込み終了（東から）



図版 18　　法士南遺跡 20 T 拡張掘り込み終了（南から）

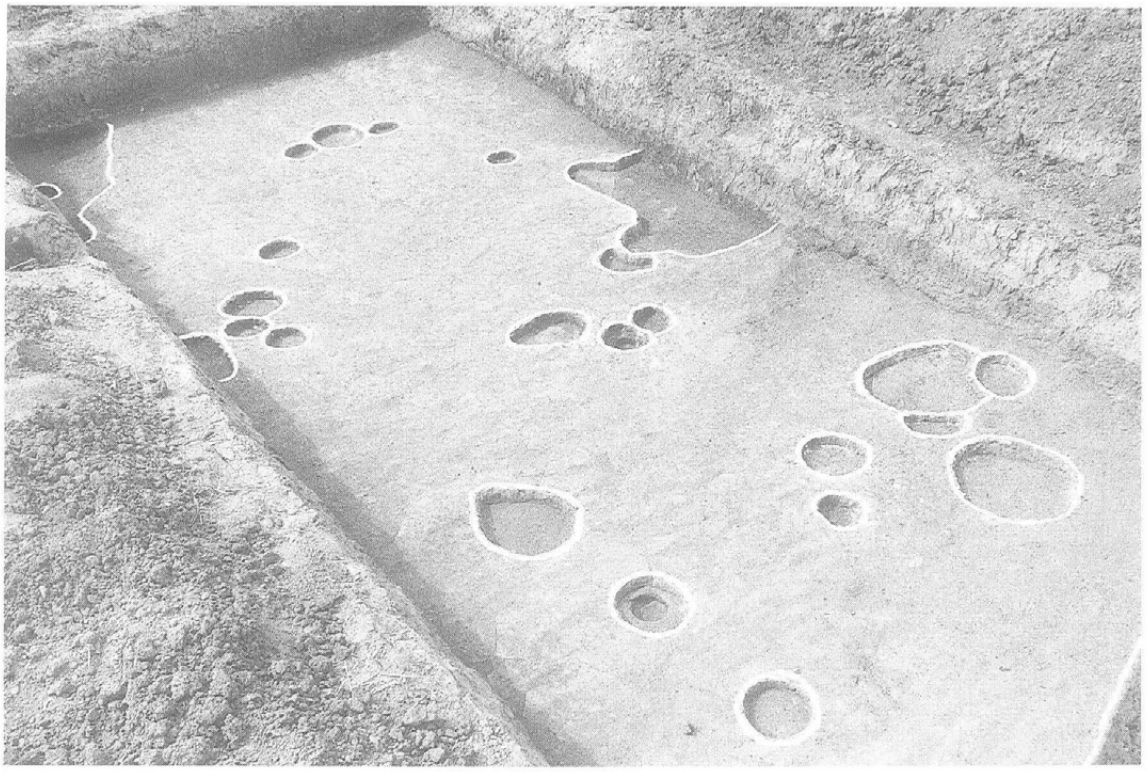
法士南遺跡 20 T 拡張 SH−2 掘り込み状況



図版 19　　法士南遺跡 20 T 拡張 SH−2・3掘り込み状況

法士南遺跡 11 T 遺構検出状況（西から）

図版 20　　法士南遺跡 11 T 遺構検出状況（西から）



法士南遺跡 14 T 拡張遺構掘り込み状況

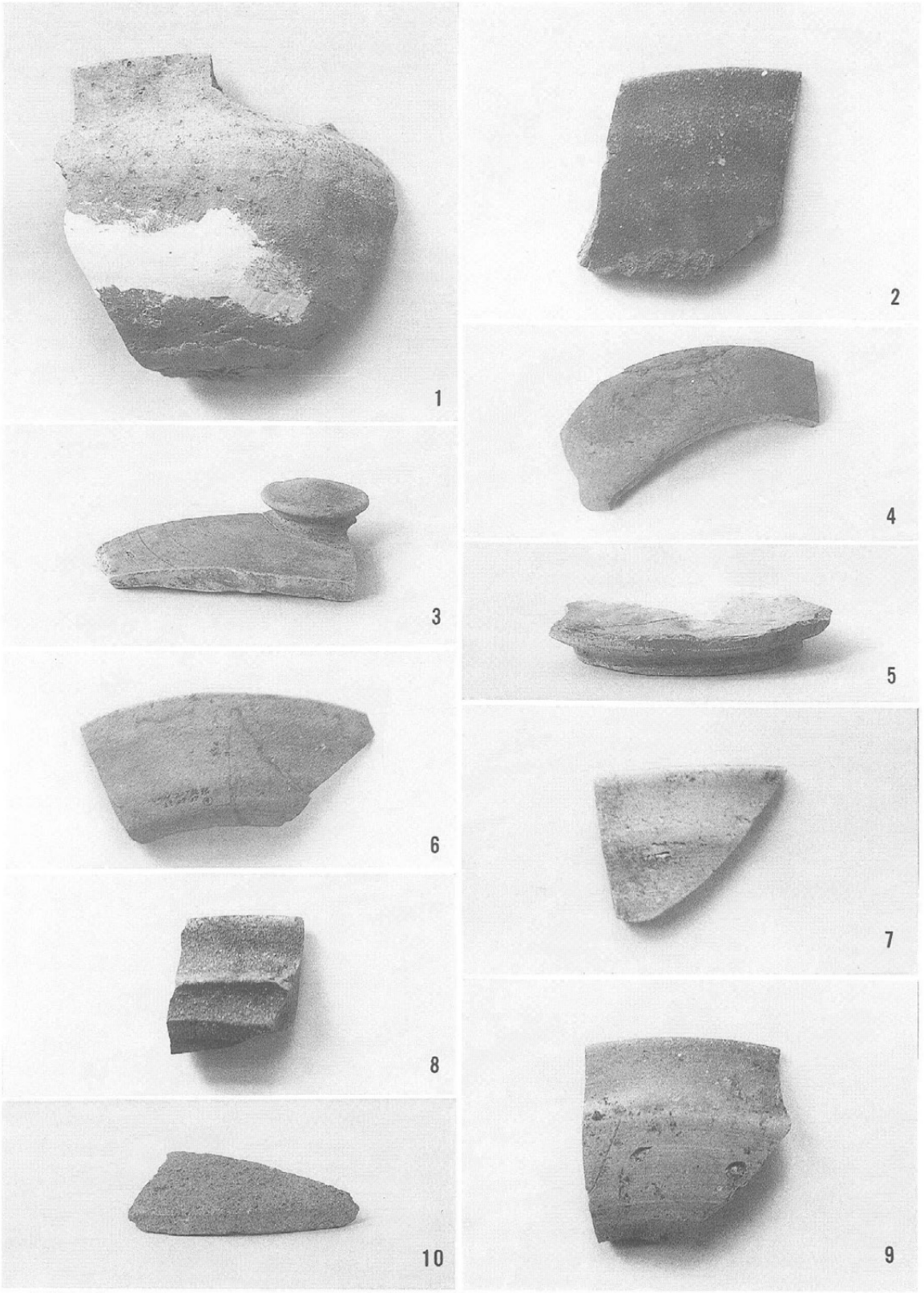
図版 21

法士南遺跡 14 T 拡張溝掘り込み状況

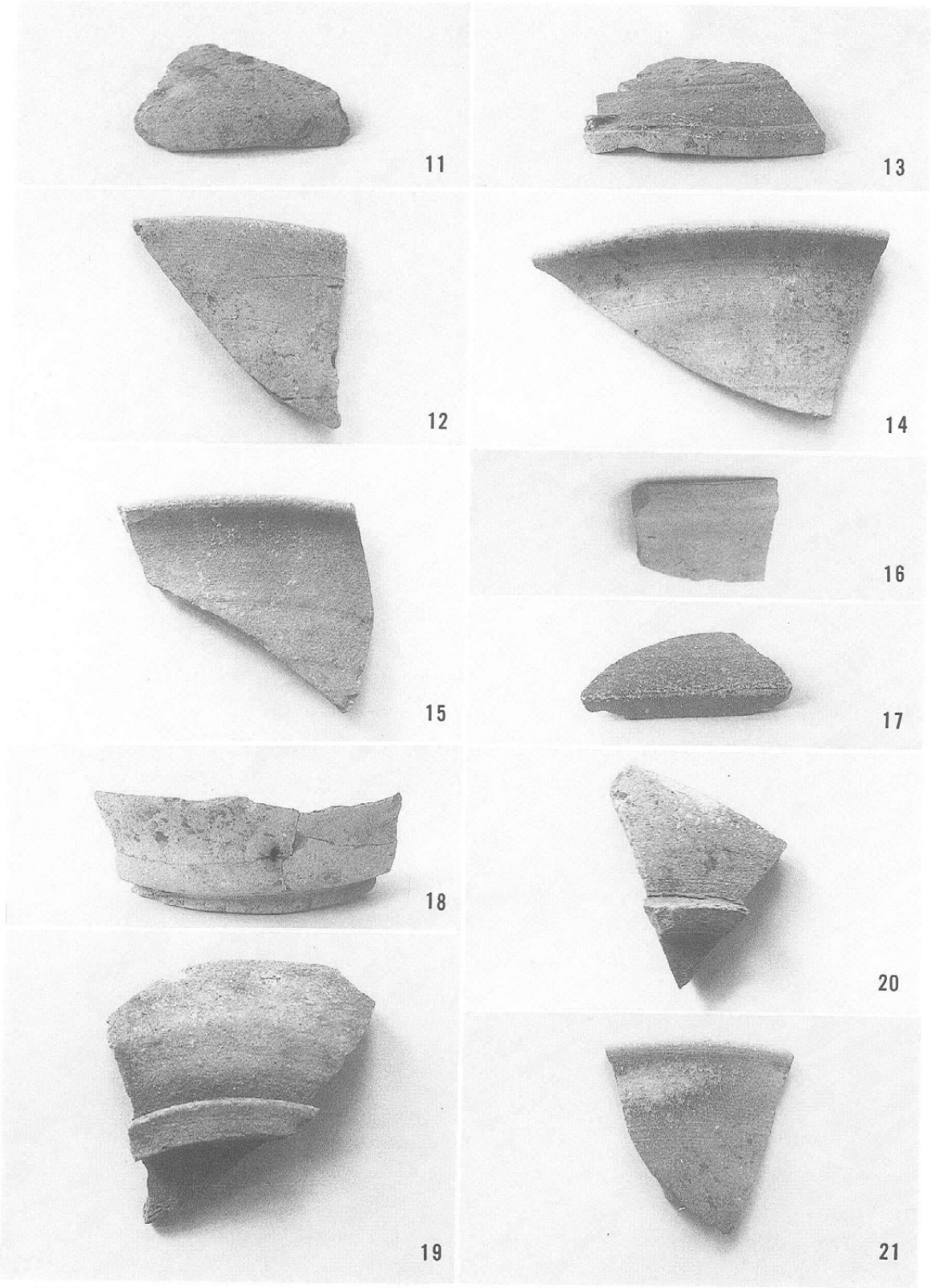
門田遺跡試掘溝設定状況

図版 22

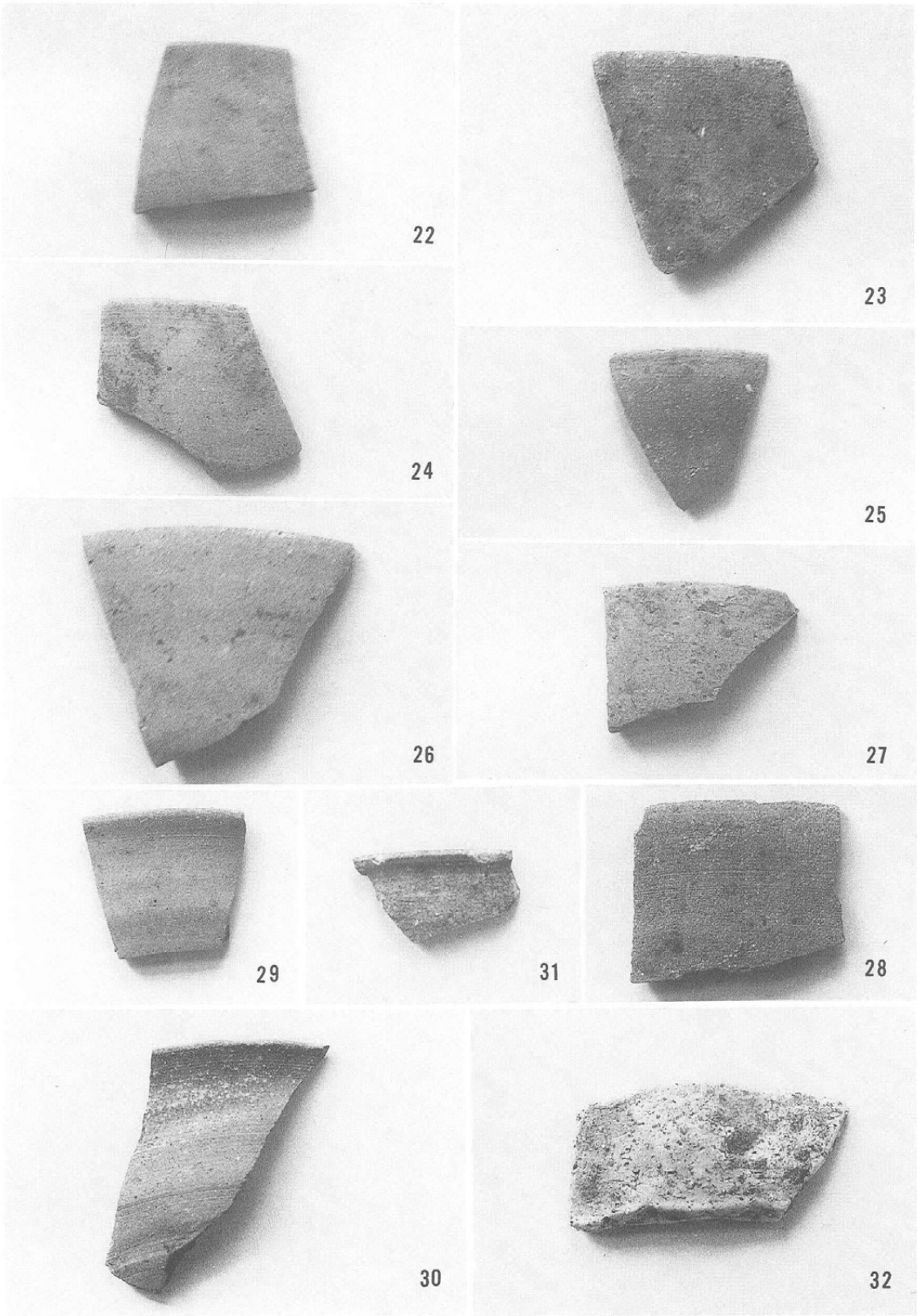
門田遺跡７Ｔ試掘状況



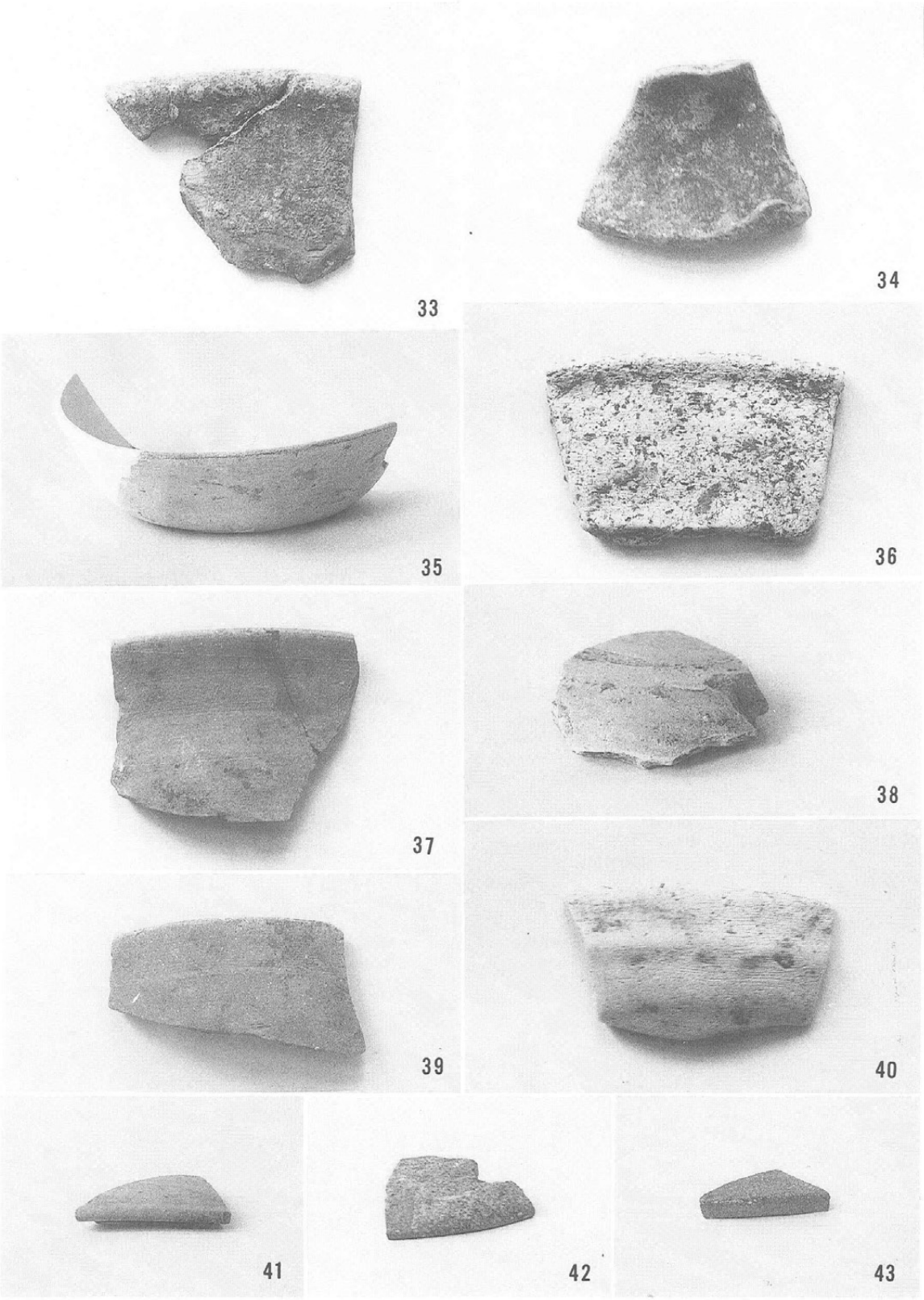
図版 23　　法士南遺跡出土遺物



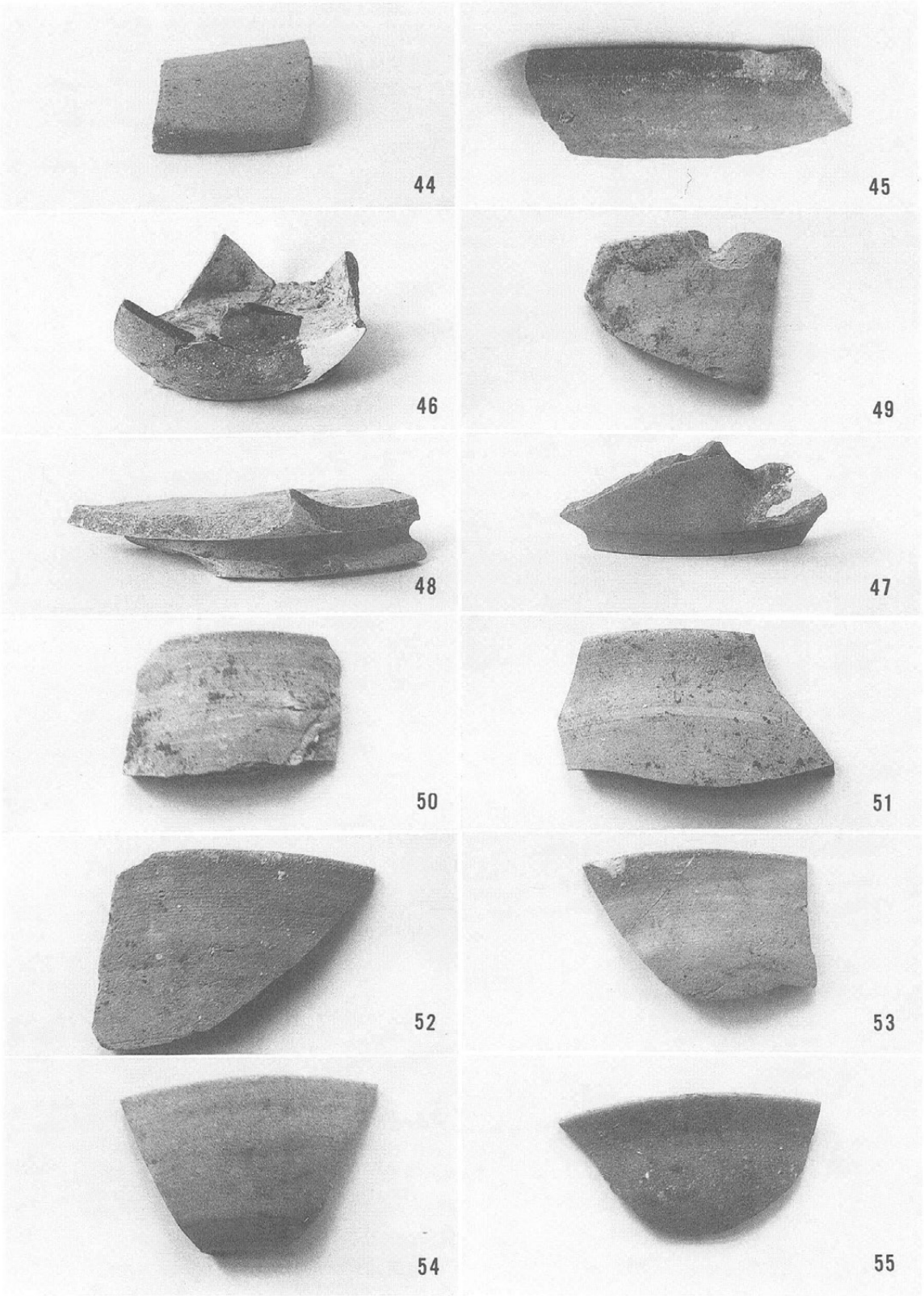
図版 24　　法士南遺跡出土遺物



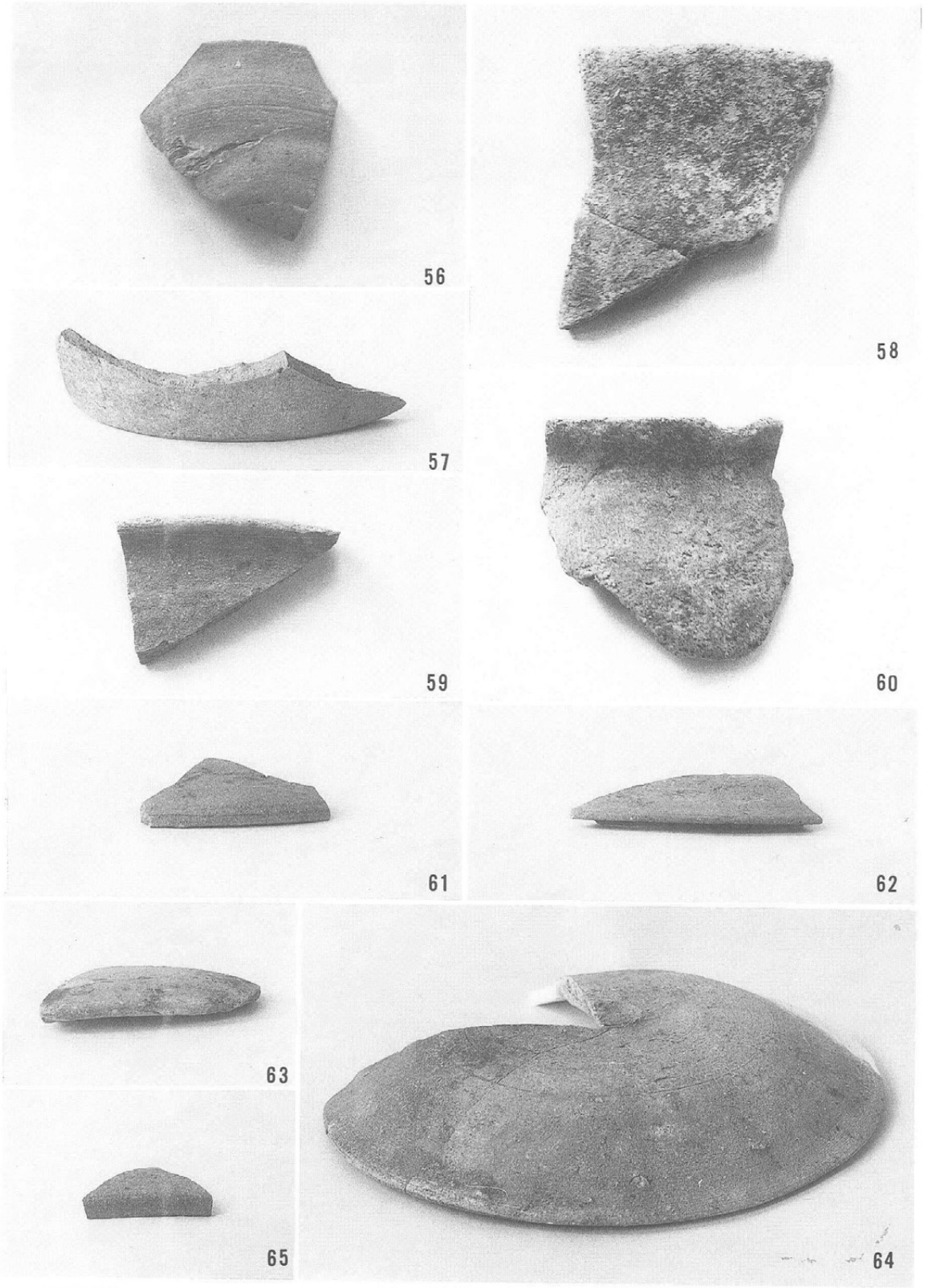
図版 25　　法士南遺跡出土遺物



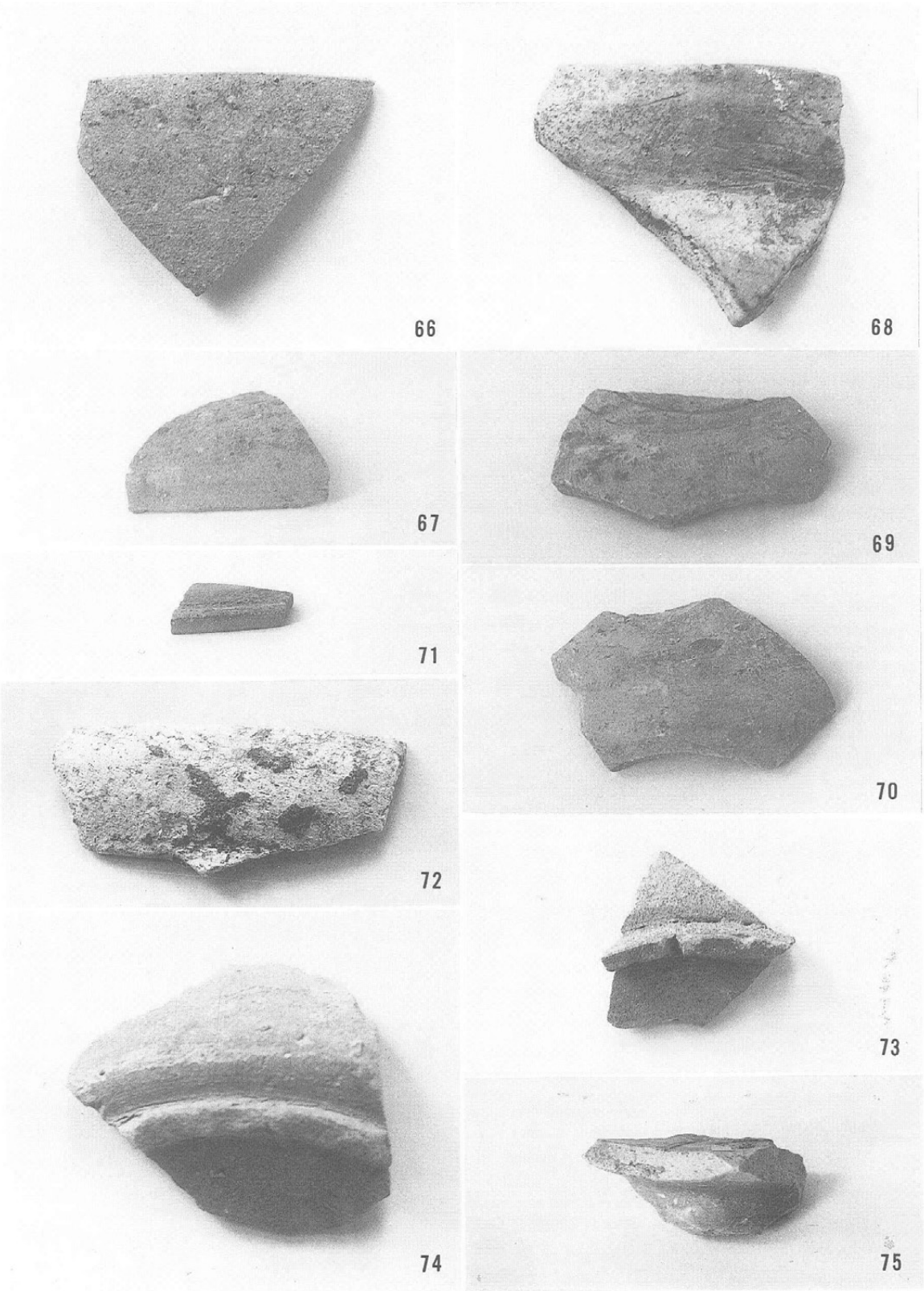
図版 26　　法士南遺跡出土遺物



図版 27　　法士南遺跡出土遺物



図版 28　　法士南遺跡出土遺物



図版 29　　法士南遺跡出土遺物

法士南遺跡・門田遺跡

平成二年三月

彦根市教育委員会